

## 第3章 アイヌ文化の経験の多様性とその分化要因

上山浩次郎

北海道大学大学院教育学研究院専門研究員

### 第1節 問題の所在

序章でもふれられているように、現在、アイヌ民族の文化に対しては多くの関心が寄せられている。しかし、現在のアイヌの人々が、どの程度アイヌ文化と関わりを持っているのかという点については、必ずしも十分に明らかにされているとはいえない。

そこで、ここでは、アイヌの人々が、どのような形でアイヌ文化を経験しているのかという点を検討しよう。またあわせて、今後、アイヌ文化と関わりを持ちたいと考えているのかという点も検討する。その際には、アイヌ文化の経験の多様性とその分化要因に焦点を合わせよう。そのことを通して、現在のアイヌの人々がもつアイヌ文化との関わり方を明らかにしたい。

本章の構成は以下のとおりである。まず、次の第2節では、先行研究を検討したのち、本章の具体的な課題を設定する。そしてその上で、第3節～第4節で現在アイヌの人々がどのようにアイヌ文化と関わりを持っているのかを明らかにする。それらをふまえて、最後に得られた知見を整理した上で、今後のアイヌ文化の担い手の動向について議論する。

### 第2節 視点と方法

#### 第1項 先行研究の整理と本章の視点

アイヌの人々が、現在、アイヌ文化とどのような関わりを持っているのか。こうした論点については、これまで十分な検討が加えられているとはいえない。

たとえば、櫻井（2010）では、小内編著（2010）で行った大規模なアンケート調査をもとにして伝統的な宗教儀礼の実践の程度や、アイヌ文化の伝承復興活動への参加の程度について言及している。そこでは、シンプルな度数分布表の検討から、宗教儀礼の実践に関して「実践の度合いは相当に低く、過去の出来事としての認知も低い」（櫻井 2010:99）、伝承復興活動への参加についても「大多数の人々はアイヌ文化と直接的に関係した生活を送っているわけではない現実がある」（櫻井 2010:102）との見解が得られている。

しかし、数は少ないにせよ、アイヌ文化に関わりを持っている者が存在していることも事実である。それゆえ、度数分布表でシンプルに検討することにとどまらず、クロス表分析などを用いて、どのような者においてアイヌ文化の実践がなされているのかという点、すなわちアイヌ文化の経験の多様性とその分化要因という論点を検討することには重要な意味があろう。

その点、小内・長田（2012）、新藤（2013）では、必ずしも直接的にアイヌ文化の経験に焦点が向けられているわけではないものの、間接的な形で、アイヌ文化の実践の多様性とその要因について言及されている。

たとえば、小内・長田（2012）では、札幌とむかわを対象として、アイヌ・アイデンティティ

の形成過程を明らかにするなかで、現在実践しているアイヌ文化の有無について分析が加えられている。そこでは、世代が高くなるにつれて、アイヌ文化を実践している者が多くなっていることが明らかにされている（小内・長田 2012:178-9）。他方で、新藤（2013）では、新ひだかを対象として、アイヌ・アイデンティティの諸相を検討するなかで、アイヌ文化の体験の程度について言及している。そこでは、小内・長田（2012）とは異なり、「青年層」で最もアイヌ文化の経験が多く、次に「老年層」が続き、最も経験が少ないのは「壮年層」であることが明らかにされている。これらを見ると、世代差のパターンは同一ではないものの、世代によってアイヌ文化の経験の程度には異なりが見られることが明らかにされている。

さらに、小内・長田（2012）や新藤（2013）では、性別によって、実践しているアイヌ文化が異なることも示唆されている。すなわち、男性では木彫・イナウ作成などが、女性では歌・踊り・刺繡・料理などが実践される場合が多い。その意味で、性別によってアイヌ文化を経験する種類が異なることが指摘されている。

この点に関して、上山（2012）でもほぼ同様の知見が指摘されている。そこでは、アイヌの人々がどのような形で「アイヌ協会」と関わっているのかという論点を検討する中で、アイヌ語・アイヌ刺繡・アイヌ古式舞踊などの「文化活動」は、40歳代以上の女性によって多くなされており、カムイノミやイナウなどの「祭祀活動」は、50歳代以上の男性によって中心的に担われていることを明らかにしている。その意味で、アイヌ文化との関わりには、世代と性別によって異なりが見られることが示唆されている。

とはいって、小内・長田（2012）、新藤（2013）、上山（2012）での知見は特定地域のインタビュー調査から得られたものである。その意味で、大規模なアンケート調査をもとにしても、世代と性別によって、アイヌ文化の実践の程度に違いが見られるのかを検討することには大きな意味があるだろう。

以上をふまえて、本章では、第1に、アイヌ文化の経験の多様性をもたらす要因について検討する。その際、先行研究の知見をうけて、まずは、世代と性別によって、アイヌ文化の経験に違いが見られるかという論点を検討する必要があろう。また、先行研究ではこれまで十分に検討されていない純血性と婚姻関係類型によってアイヌ文化の経験が異なるのかという論点も検討する。

第2に、これまでのアイヌ文化の経験の有無だけではなく、今後、アイヌ文化とどのように関わりたいかという将来展望についても、その多様性と分化要因について検討する。この点を明らかにすることは、アイヌ文化の担い手を展望する上で不可欠の課題といえよう。

## 第2項 度数分布表の確認

具体的な変数を確認しておく。まず、アイヌ文化の経験は、問40の「下記のアイヌ伝統文化の宗教儀礼を実践したり、聞いたりしたことがありますか」と問41の「アイヌ文化の伝承活動・復興活動に参加したり実践したりしたことがありますか」の各質問項目を用いる（小内編著（2010：121-32）の付属資料・個人調査票、参照）。なお、問40はアイヌ文化のうちとくに宗教儀礼を、問41はアイヌ文化の伝承復興活動を把握している。

また、アイヌ文化の将来展望については、問42の「上記の活動のうち、今後、関わりたいと思っているものについて、いくつでも当てはまる記号を記入してください」（ここで上記とは問41を

意味する）を用いる。

分析の前に、単純な度数分布表を確認しておこう。まず、図3-1には、問40の変数を整理した。ここからはアイヌ文化のうち宗教儀礼の度数分布を確認できる。そこでは、いずれの項目においても「知らない」と回答する者が多いことがわかる。具体的に値を確認すると、「知らない」と回答する者が最も多い「器物送り（モノ等を捨てるときに）」では77.8%の者が「知らない」と回答しており、「知らない」と回答する者が最も少ない「サケを迎える儀礼」でも48.5%の者が「知らない」と回答しているのである。その意味で櫻井（2010）が指摘したように、現在のアイヌの人々にとってアイヌ文化はそれほど関わりがあるとはいえない。

とはいえ、そうした中でも、相対的に見て、関わりが見られるアイヌ文化も存在している。たとえば、「伝統的な先祖供養」を見ると「過去に体験したことがある」者が13.1%、さらに「現在も実践している者」も11.4%存在している。また、「イナウを捧げる」を見ると、「過去に体験したことがある」者が11.7%、さらに「現在も実践している者」も9.2%存在しているのである。

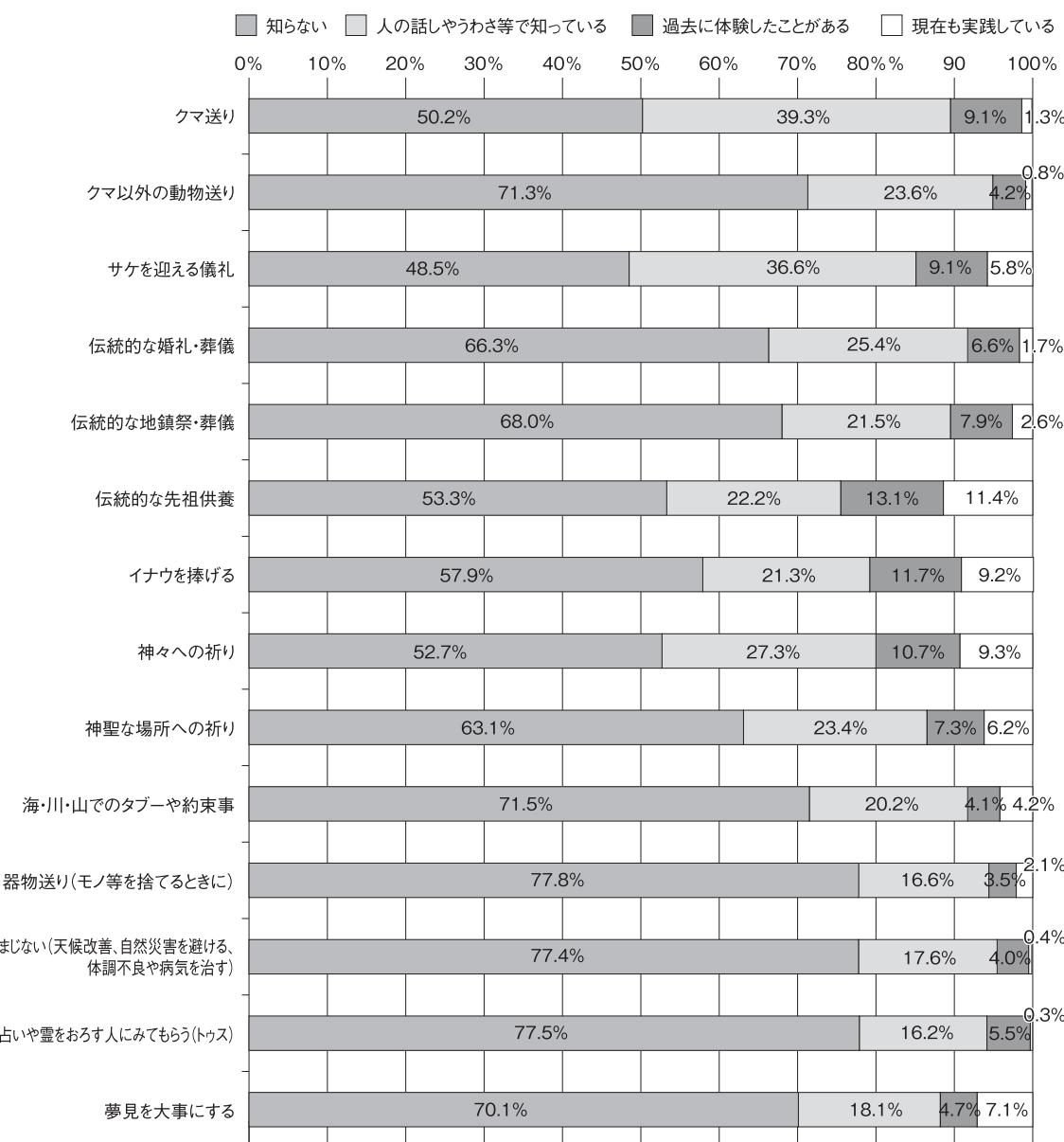


図3-1 宗教儀礼の実践

次に、図3-2からアイヌ文化のうち伝承復興活動(問41)の度数分布表を確認しよう。ここでも、すべての項目で「関わったことがない」が多く、その意味で、伝承復興活動から見ても現在のアイヌの人々にとってアイヌ文化との関わりが見られない。具体的に値を見ると、「伝統的狩猟・農法・漁法」では90.3%の者が「関わったことがない」と回答している。また、「関わったことがない」と回答している者が最も少ない「祭事(カムイノミ等)」でも、71.1%と7割の者がそれに関わっているとはいえないでのある。

しかし、逆にいえば、「祭事(カムイノミ等)」では、17.2%と2割弱の者が「かつて関わったことがある」と回答し、11.7%の者が「現在関わっている」と回答している。その意味で、3割近くの者が何らかの形で「祭事(カムイノミ等)」と関わりを持っている(た)ことになる。また、「踊り」も、「かつて関わったことがある」者が15.7%、「現在関わってもいる」が9.3%となっているのである。

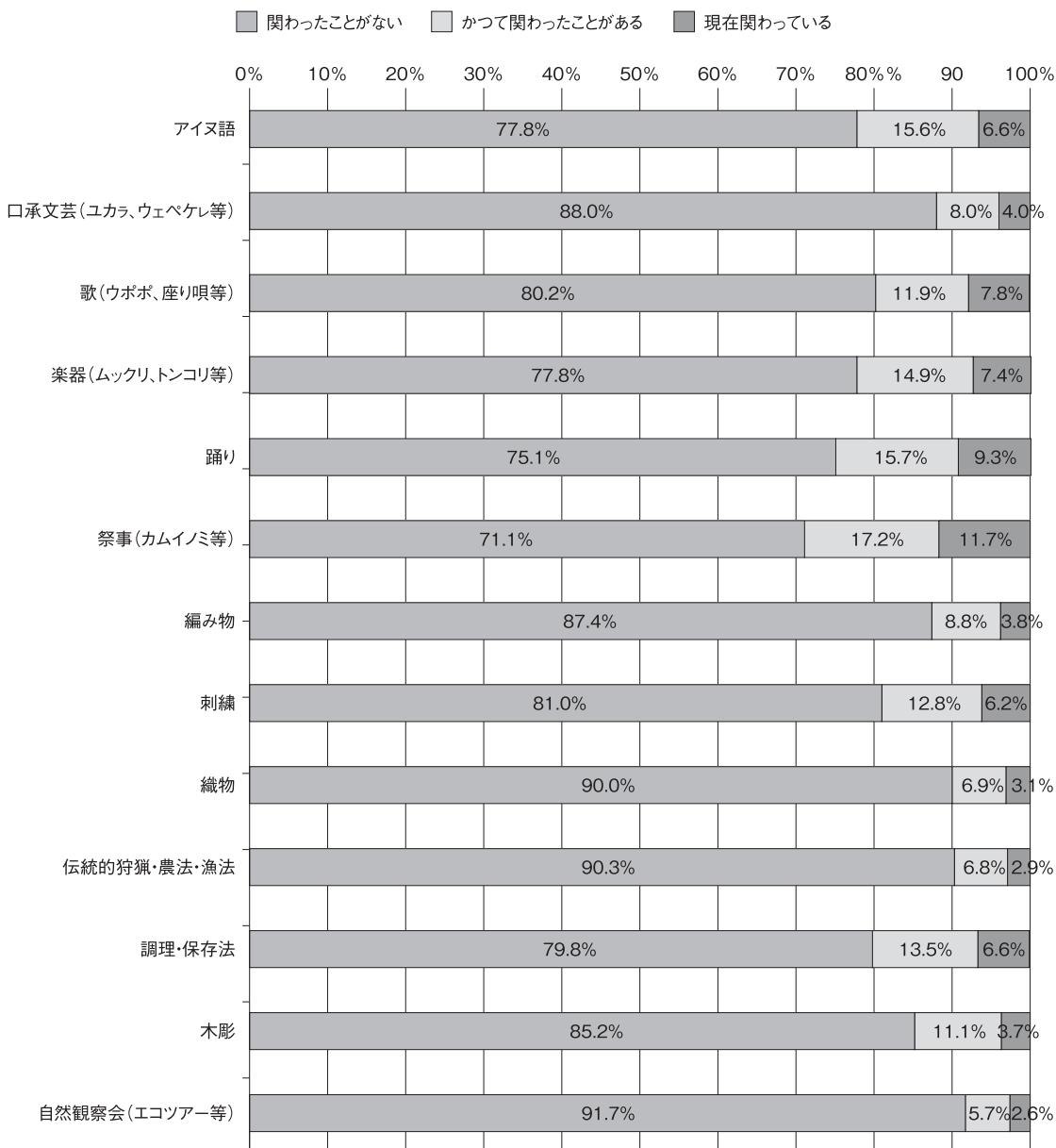


図3-2 伝承復興活動の実践

最後に、図3-3で今後関わりたいアイヌ文化を確認しよう。そこでは、「アイヌ語」が37.7%と今後関わりたいアイヌ文化として最も多く回答されている。その他の項目を見ると、「口承文芸(ユカラ・ウェベケレ等)」が13.7%と最も低く回答されているものの、その他の項目に関しては、おおよそ20~30%の者が今後関わりたいと回答している。

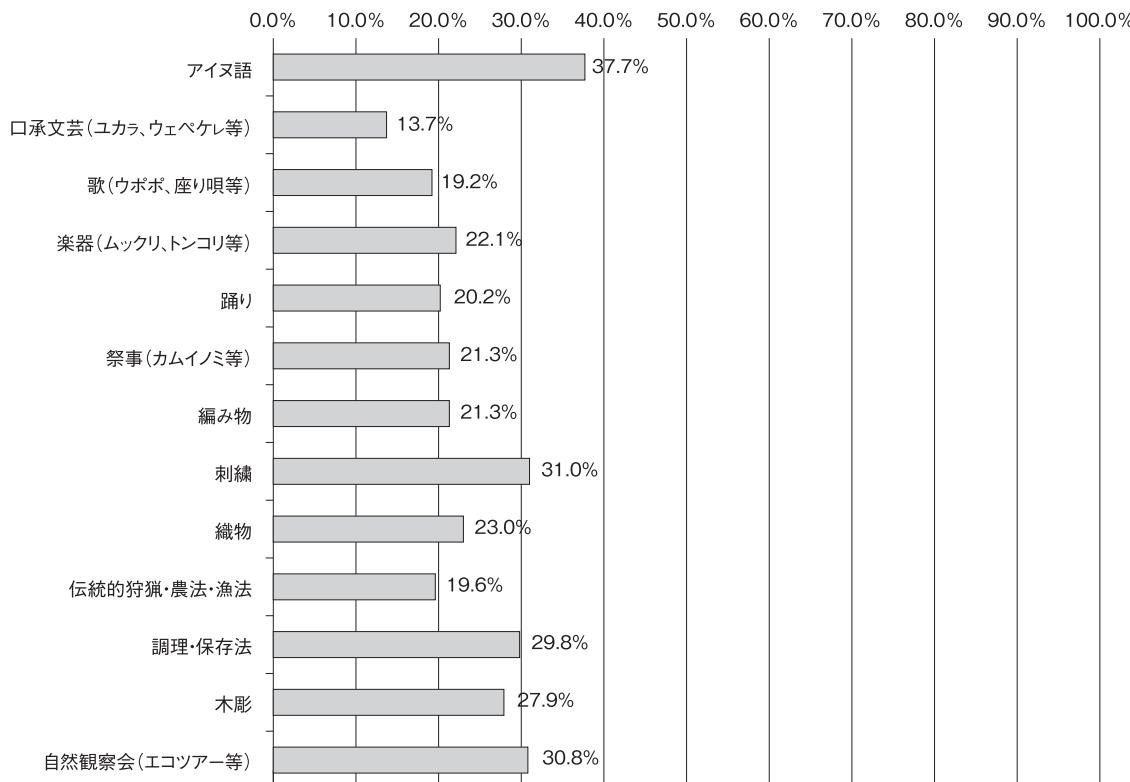


図3-3 今後関わりたい伝承復興活動

### 第3項 アイヌ文化に関する変数の関連

このように見れば、たしかにアイヌ文化を経験している者はそれほど多くはないものの、宗教儀礼に関しても、伝承復興活動に関しても、一定数、アイヌ文化を経験している者が存在していることがわかる。その意味で、アイヌ文化の経験には多様性が見られる。

この点をより明確にしよう。そのため、問40の質問（14項目）への回答を合計した変数と問41の質問（13項目）への回答を合計した変数を作成した<sup>1)</sup>。それぞれ値が大きいほど、宗教儀礼に関するアイヌ文化、伝承復興活動に関するアイヌ文化の経験が多いことを意味しよう。それらの相関係数をみると、0.699（有意確率 = 0.000）であり、宗教儀礼の経験と伝承復興活動の経験には正の関連が見られることがわかる。すなわち、宗教儀礼の経験を多く（少なく）経験している者ほど伝承復興活動も多く（少なく）経験している。ここからは、アイヌ文化を多く経験している者とアイヌ文化をそれほど経験していない者が存在していることが示唆されよう。

この点をカテゴリカルに捉えてみよう。先に作成した変数を、それぞれサンプルが2分される

よう2値にカテゴリ化した。そして、それらをクロス表分析したのが表3-1である。

それによれば、ここからも、宗教儀礼の経験が多い者ほど、伝承復興活動を経験している者が多いことがわかる。具体的に値を確認すると、宗教儀礼が「多い」者において、伝承復興活動が「多い」者は68.3%となっているのに対し、宗教儀礼が「少ない」者においては伝承復興活動が「多い」者は14.7%にすぎない。

表3-1 宗教儀礼×伝承復興活動

			伝承復興活動		
			少ない	多い	合計
宗教儀礼	少ない	度数	1,794	310	2,104
		割合	85.3%	14.7%	100.0%
		調整済み残差	34.151	-34.151	
	多い	度数	572	1,232	1,804
	多い	割合	31.7%	68.3%	100.0%
	多い	調整済み残差	-34.151	34.151	
	合計	度数	2,366	1,542	3,908
	合計	割合	60.5%	39.5%	100.0%

p=0.000

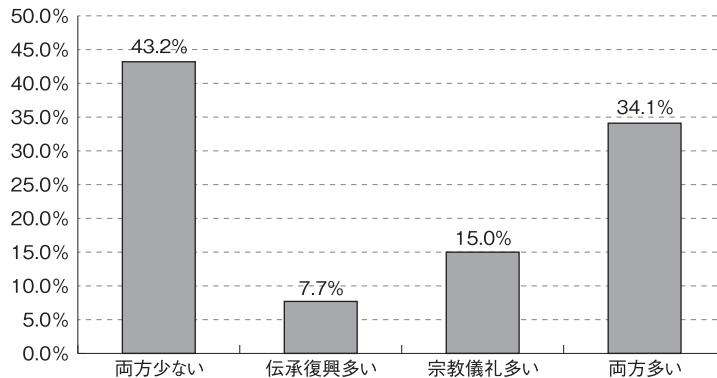


図3-4 アイヌ文化類型

とはいって、ここで注目したいのは、このクロス表の各セルは、アイヌ文化の経験に関する類型（多様性）を示していると位置づけられる点である。すなわち、

- ・「両方多い」：宗教儀礼の経験も伝承復興活動の経験も多い
- ・「宗教儀礼多い」：宗教儀礼の経験は多いものの伝承復興活動の経験が少ない
- ・「伝承復興多い」：宗教儀礼の経験は少ないものの伝承復興活動の経験が多い
- ・「両方少ない」：宗教儀礼の経験も伝承復興活動の経験も少ない

という4つのタイプにアイヌ文化の経験を整理することができる。図3-4にはそれを整理した。それによれば、「両方少ない」者が43.2%、「両方多い」者が34.1%おり、この2つのタイプで7割強占めていることがわかる。

では、こうしたアイヌ文化の経験は、アイヌ文化の将来展望と関連しているのだろうか。図3-

5を見よう。そこにはアイヌ文化の経験類型別に将来アイヌ文化と関わりたいかどうかを分散分析で検討した結果を示した。なお、将来アイヌ文化と関わりたいかを捉える変数としては、問42(13項目)の回答を合計した変数を用いた<sup>2)</sup>。この値が大きければ大きいほど、将来関わりたいと考えているアイヌ文化の項目が多いことを意味する。

それによれば、F値が167.072で有意確率が0.000であり、文化の経験別にアイヌ文化の将来展望に違いが見られることがわかる。具体的には、アイヌ文化の経験が多い者ほど将来もアイヌ文化と関わりたいと考えている。たとえば、アイヌ文化の経験が「両方少ない」者においては、将来関わりたいと考えているアイヌ文化は2.221項目にすぎないのでに対し、アイヌ文化の経験が「両方多い」者においては、将来関わりたいアイヌ文化は3.674項目になっている。

それでは、以下、アイヌ文化の経験の多様性と分化要因について検討を加え(→第3節)、その上でアイヌ文化の将来展望について分析を行おう(→第4節)。

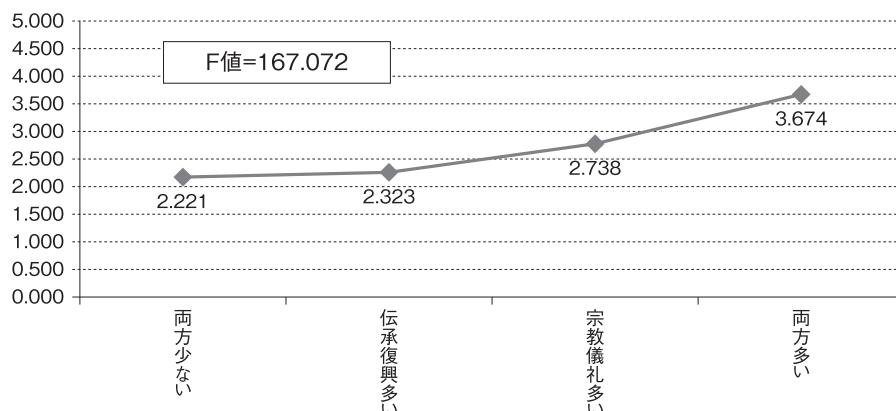


図3-5 アイヌ文化類型×将来展望

### 第3節 アイヌ文化の経験

#### 第1項 クロス表分析

はじめに、世代別にアイヌ文化の経験を検討しよう。そこで、先ほど作成したアイヌ文化の経験類型を世代別に確認しよう。表3-2にそれを整理した。まず、 $\chi^2$ 乗値の有意確率は0.000となっており、世代とアイヌ文化の経験には関連が見られることがわかる。具体的には、そこからは、世代が高いほどアイヌ文化の経験が多く、世代が若いほどアイヌ文化の経験が少ないことがわかる。たとえば、アイヌ文化類型が「両方多い」者を見ると、「老年層」で51.7%となっているのに対し、「壮年層」では33.1%、「青年層」では16.7%の者しか「両方多い」者がいない。他方で、「両方少ない」者は、青年層で65.8%も存在しているのに対して、「壮年層」で40.2%、「老年層」で26.4%となっているのである。

こうした傾向は、アイヌ文化を項目ごとに確認しても見出せる。表3-3にはアイヌ文化の各項目への回答を整理した。なお、宗教儀礼を捉える問40への回答は「現在も実践している」と「過去に体験したことがある」者の割合を、伝承復興活動を捉える問41への回答は「現在関わっている」と「かつて関わったことがある」者の割合を示してある。

表3-2 世代別にみたアイヌ文化類型

		両方 少ない	伝承復興 多い	宗教儀礼 多い	両方 多い	合計
青年層	度数	864	102	129	219	1,314
	割合	65.8%	7.8%	9.8%	16.7%	100.0%
	調整済み残差	17.744	- 0.353	- 6.053	- 14.226	
壮年層	度数	701	158	307	576	1,742
	割合	40.2%	9.1%	17.6%	33.1%	100.0%
	調整済み残差	- 6.390	2.266	4.783	1.896	
老年層	度数	219	50	132	429	830
	割合	26.4%	6.0%	15.9%	51.7%	100.0%
	調整済み残差	- 12.728	- 2.342	1.184	14.120	
合計	度数	1,784	310	568	1,224	3,886
	割合	45.9%	8.0%	14.6%	31.5%	100.0%

p=0.000

表3-3 世代別にみたアイヌ文化（各項目）

宗教儀礼	青年層	壮年層	老年層	p	Cramer のV
クマ送り	2.3%	7.7%	17.6%	0.000	0.204
クマ送り以外の動物送り	1.3%	3.6%	7.8%	0.000	0.125
サケを迎える儀礼	5.5%	11.1%	20.6%	0.000	0.173
伝統的な婚礼・葬儀	2.4%	5.9%	13.3%	0.000	0.163
伝統的な地鎮祭・新築祝い	3.0%	7.9%	16.3%	0.000	0.176
伝統的な先祖供養	7.2%	19.5%	39.0%	0.000	0.291
イナウを捧げる	5.8%	16.6%	33.7%	0.000	0.272
神々への祈り	6.8%	15.7%	29.3%	0.000	0.224
神聖な場所への祈り	5.0%	10.5%	18.3%	0.000	0.158
海・川・山でのタブーや約束事	2.3%	6.0%	12.0%	0.000	0.148
器物送り（モノ等を捨てるときに）	1.4%	4.0%	8.1%	0.000	0.124
まじない	2.0%	4.0%	6.7%	0.000	0.089
占いや靈をおろす人にみてもらう（トゥス）	2.0%	4.8%	9.9%	0.000	0.132
夢見を大事にする	3.8%	8.7%	16.4%	0.000	0.162

注) 「現在も実践している」「過去に体験したことがある」の割合

伝承復興活動	青年層	壮年層	老年層	p	Cramer のV
アイヌ語	12.3%	18.3%	28.9%	0.000	0.155
口承文芸（ユカラ、ウェベケレ等）	6.1%	8.7%	18.2%	0.000	0.151
歌（ウポポ、座り唄等）	10.0%	16.0%	25.2%	0.000	0.150
楽器（ムックリ、トンコリ等）	15.1%	19.1%	23.0%	0.000	0.075
踊り	12.6%	21.2%	30.6%	0.000	0.164
祭事（カムイノミ等）	11.3%	24.6%	40.8%	0.000	0.252
編み物	4.9%	9.4%	17.6%	0.000	0.156
刺繍	8.2%	16.4%	24.6%	0.000	0.166
織物	3.8%	7.9%	14.1%	0.000	0.138
伝統的狩獵・農法・漁法	3.0%	8.2%	14.8%	0.000	0.159
調理・保存法	6.4%	18.6%	26.1%	0.000	0.204
木彫	6.8%	13.3%	16.7%	0.000	0.118
自然観察会（エコツアー等）	3.8%	6.5%	11.6%	0.000	0.113

注) 「現在関わっている」「かつて関わったことがある」の割合

そこから、たとえば、宗教儀礼の「クマ送り」を経験したことがある者を見ると、「青年層」で23%、「壮年層」で7.7%、「老年層」で17.6%となっており、世代が高いほど経験が多くなっているのである。

次に、性別にアイヌ文化を検討する。表3-4から性別×アイヌ文化の経験類型のクロス表を確認しよう。それによれば、性別によってアイヌ文化の経験に違いが見られることがわかる。 $\chi^2$ 二乗値の有意確率を見ると有意水準をクリアしており、その意味で性別によってアイヌ文化類型が異なると判断できるからである。

では、具体的にはどのような違いがあるのか。まず、指摘できるのは、男性ほどアイヌ文化の経験が少なく、女性ほどアイヌ文化の経験が多いという点だろう。たとえば、「両方少ない」を見ると、男性で48.8%である一方、女性では43.1%となっている。他方で、「両方多い」を見ると、男性で28.6%であるのに対し、女性では34.3%となっているのである。

さらに指摘することができるは、男性では「宗教儀礼多い」が女性に比べ多く見られるのに対し、女性では「伝承復興多い」が男性に比べ多く見られるという点である。たとえば、「宗教儀礼多い」を見ると、男性で17.6%なのに対し女性では11.8%にすぎない。

ただし、男性で「宗教儀礼多い」が多く見られるのは、とくに動物送りや「サケを迎える儀式」などの儀礼的なアイヌ文化に関して、「人の話やうわさ等で知っている」者が多いためである点には留意した方がよい。表3-5から性別に「サケを迎える儀式」を見ると、男性の場合に調整済み残差<sup>3)</sup>が1.960よりも大きいのは、「人の話やうわさ等で知っている」の2.809であり、そこからは「サケを迎える儀式」においては、男性ほど「サケを迎える儀式」を「人の話やうわさ等で知っている」者が多いと判断できる。実際に値を確認すると、男性で37.6%、女性で33.3%となっている。

表3-4 性別にみたアイヌ文化類型

		両方 少ない	伝承復興 多い	宗教儀礼 多い	両方 多い	合計
男性	度数	937	97	338	550	1,922
	割合	48.8%	5.0%	17.6%	28.6%	100.0%
	調整済み残差	3.515	- 6.576	5.118	- 3.839	
女性	度数	856	213	234	681	1,984
	割合	43.1%	10.7%	11.8%	34.3%	100.0%
	調整済み残差	- 3.515	6.576	- 5.118	3.839	
合計	度数	1,793	310	572	1,231	3,906
	割合	45.9%	7.9%	14.6%	31.5%	100.0%

p=0.000

表3-5 性別にみたアイヌ文化（サケを迎える儀式）

		サケを迎える儀式				合計
		知らない	人の話やうわさ 等で知っている	過去に体験し たことがある	現在も実践し ている	
男性	度数	990	722	137	73	1,922
	割合	51.5%	37.6%	7.1%	3.8%	100.0%
	調整済み残差	- 2.307	2.809	- 0.036	- 0.925	
女性	度数	1,095	660	142	87	1,984
	割合	55.2%	33.3%	7.2%	4.4%	100.0%
	調整済み残差	2.307	- 2.809	0.036	0.925	
合計	度数	2,085	1,382	279	160	3,906
	割合	53.4%	35.4%	7.1%	4.1%	100.0%

p=0.048

表3-6 性別にみたアイヌ文化（各項目）

宗教儀礼	男性	女性	合計	p	Cramer のV
クマ送り	8.6%	7.4%	8.0%	0.158	0.023
クマ送り以外の動物送り	4.2%	3.2%	3.7%	0.120	0.025
サケを迎える儀式	10.9%	11.5%	11.2%	0.542	0.010
伝統的な婚礼・葬儀	5.8%	6.7%	6.3%	0.259	0.018
伝統的な地鎮祭・新築祝い	8.3%	7.8%	8.0%	0.597	0.008
伝統的な先祖供養	18.3%	20.6%	19.5%	0.076	0.028
イナウを捧げる	16.6%	16.6%	16.6%	0.990	0.000
神々への祈り	15.0%	16.2%	15.6%	0.284	0.017
神聖な場所への祈り	9.9%	10.8%	10.4%	0.330	0.016
海・川・山でのタブーや約束事	5.8%	6.3%	6.1%	0.536	0.010
器物送り（モノ等を捨てるときに）	3.6%	4.3%	4.0%	0.269	0.018
まじない	3.1%	4.7%	3.9%	0.012	0.040
占いや靈をおろす人にみてもらう（トゥス）	3.4%	6.4%	4.9%	0.000	0.069
夢見を大事にする	6.0%	11.2%	8.7%	0.000	0.092

注) 「現在も実践している」「過去に体験したことがある」の割合

伝承復興活動	男性	女性	合計	p	Cramer のV
アイヌ語	15.3%	21.5%	18.5%	0.000	0.080
口承文芸（ユカラ、ウェベケレ等）	7.6%	11.9%	9.8%	0.000	0.072
歌（ウボボ、座り唄等）	9.5%	22.1%	15.9%	0.000	0.173
楽器（ムックリ、トンコリ等）	13.6%	23.2%	18.5%	0.000	0.124
踊り	13.4%	27.0%	20.3%	0.000	0.169
祭事（カムイノミ等）	21.8%	25.3%	23.6%	0.010	0.041
編み物	3.9%	15.2%	9.6%	0.000	0.192
刺繡	3.7%	26.5%	15.3%	0.000	0.317
織物	3.2%	12.2%	7.8%	0.000	0.168
伝統的狩猟・農法・漁法	9.7%	6.0%	7.8%	0.000	0.068
調理・保存法	9.6%	22.3%	16.1%	0.000	0.174
木彫	12.3%	11.4%	11.9%	0.418	0.013
自然観察会（エコツアーラ等）	6.5%	6.9%	6.7%	0.616	0.008

注) 「現在関わっている」「かつて関わったことがある」の割合

このことは、逆にいえば、「サケを迎える儀式」においては、性別によって「現在も実践している」と「過去に体験したことがある」には違いが見られないということである。それゆえ、表3-6から確認できるように「サケを迎える儀式」を経験した者は、男性で10.9%、女性で11.5%であり $\chi^2$ 二乗値の有意確率は0.542と有意水準をクリアしていないのである。こうした傾向は、「クマ送り」や「クマ送り以外の動物送り」でも同様に見られる。

他方で、女性において「伝承復興多い」が多いのは、実際にアイヌ文化を経験した者が多いために生じている。再度、表3-6から伝承復興活動を見ると、おおよそ女性ほどアイヌ文化を経験している。たとえば、「刺繡」を見ると、男性では3.7%にすぎないに対し女性では26.5%の者が、アイヌ文化の「刺繡」を経験しているのである。こうした点をふまえると、この女性における伝承復興活動の多さが、男性よりも女性においてアイヌ文化類型のうち「両方多い」者が見られるという事実をもたらしていると考えられよう。

続いて、純血性によってアイヌ文化の経験に異なりが見られるのかを検討しよう。ここで純血性は、「両親とも」アイヌの者、「片方の親のみ」アイヌの者、「その他」の血筋の者（和人配偶者）の3カテゴリーで捉える<sup>4)</sup>。表3-7を見よう。それによれば、 $\chi^2$ 二乗値の有意確率が0.000であり、純血性によってアイヌ文化の経験に違いが見られることがわかる。さらに具体的な関連を検討す

ると、アイヌの血筋である者ほど、さらにアイヌの血筋の者のうちでは血筋が「濃い」者ほどアイヌ文化の経験が多い。たとえば、「両方多い」と回答する割合を見ると、「その他」の者で28.5%、「片方の親のみ」で30.4%、「両親とも」で52.5%となっているのである。

このような傾向は、アイヌ文化のいずれの項目からも確認できる。表3-8からたとえば「自然観察会（エコツアー等）」を見ても、「両親とも」で10.7%、「片方の親のみ」で6.8%、「その他」で5.2%となっているのである（有意確率=0.000）。

さらに、婚姻関係類型別に検討してみよう。表3-9から $\chi^2$ 二乗値の有意確率を見ると0.000であり、その意味で婚姻関係類型によってアイヌ文化の経験には違いがある。具体的に値を確認すると（図3-6も参照）、たとえば「両方多い」を見ると、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」で54.1%、「和人配偶者を持つアイヌ」で40.7%、「未婚アイヌ」で18.0%、「和人配偶者」で27.7%となっている。他方で、「両方少ない」を見ると、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」で22.9%、「和人配偶者を持つアイヌ」で34.5%、「未婚アイヌ」で61.4%、「和人配偶者」で51.2%となっている。

このように見れば、アイヌの血筋を持つ者に関しては、結婚しているほど、さらに結婚相手がアイヌの血筋を持っている者ほどアイヌ文化の経験が多いことがわかる。他方で、アイヌの血筋を持っていない「和人配偶者」は、結婚しているアイヌの者（「アイヌ配偶者を持つアイヌ」「和人配偶者を持つアイヌ」）よりもアイヌ文化を経験していないものの、結婚していない「未婚アイヌ」と比べればアイヌ文化を経験している。こうした点は、アイヌの血筋を持っている者との結婚がアイヌ文化に関わる機会をもたらしていることを意味しているのかもしれない。ただ、そもそもアイヌ文化に接する機会が多かった者がアイヌの血筋の者と結婚しているとも考えられる。

とはいっても、こうした傾向は、アイヌ文化の各項目から見てもおおよそ見出すことができる。たとえば、表3-10から宗教儀礼の「伝統的な先祖供養」を経験している者を見ると、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」で38.2%、「和人配偶者を持つアイヌ」で26.7%、「未婚アイヌ」で9.4%、「和人配偶者」で15.4%となっているのである。

ただし、婚姻関係類型の分析を行う場合、ジェンダー差を考慮した方がよいかもしれない。なぜなら、たとえば、同じ「和人配偶者」といっても、男性の「和人配偶者」（和人夫）と女性の「和人配偶者」（和人妻）ではアイヌ文化の経験に違いが見られる可能性があるからである。実際、小野寺（2012）では、アイヌ夫と結婚することを契機にアイヌ文化に关心を持った和人妻のケースが紹介されている。

こうした和人妻のアイヌ文化の経験は、アイヌの血筋をもった男性が持つアイヌ文化の経験と比べた場合、どのような特徴があるのだろうか。先に確認したように、性別では男性よりも女性の方でアイヌ文化の経験が多かった。この点をふまえれば、アイヌ男性と和人妻を比較した場合、和人妻の方がアイヌ文化の経験が多いことになる。しかし、先に婚姻関係類型をみた際には、結婚しているアイヌの血筋の者は、和人配偶者よりもアイヌ文化を経験していた。ここからは既婚者に限定すれば、アイヌ男性ほどアイヌ文化を経験していることになろう。

それではどちらが妥当なのだろうか。この点を検討するため、性別（2カテゴリ）と婚姻関係類型（4カテゴリ）の2変数を掛け合わせた合成変数（8カテゴリ）を作成し、それを用いてアイヌ文化の経験類型をクロス表分析した。それを表3-11に整理してある。それによれば、 $\chi^2$ 二乗値の有意確率は0.000であり、何らかの関連が見られると判断できる。

表3-7 純血性別にみたアイヌ文化類型

		両方 少ない	伝承復興 多い	宗教儀礼 多い	両方 多い	合計
両親とも	度数	202	36	101	374	713
	割合	28.3%	5.0%	14.2%	52.5%	100.0%
	調整済み残差	- 8.712	- 3.158	- 0.629	11.324	
片方の親のみ	度数	826	163	293	559	1,841
	割合	44.9%	8.9%	15.9%	30.4%	100.0%
	調整済み残差	2,806	2,285	1,785	- 5,551	
その他	度数	423	69	113	241	846
	割合	50.0%	8.2%	13.4%	28.5%	100.0%
	調整済み残差	4,969	0,341	- 1,465	- 4,265	
合計	度数	1,451	268	507	1,174	3,400
	割合	42.7%	7.9%	14.9%	34.5%	100.0%

p=0.000

表3-8 純血性別にみたアイヌ文化（各項目）

宗教儀礼	両親とも	片方の親のみ	その他	p	Cramer のV
クマ送り	17.0%	8.0%	4.3%	0.000	0.154
クマ送り以外の動物送り	7.6%	4.0%	1.7%	0.000	0.101
サケを迎える儀礼	19.8%	11.2%	9.3%	0.000	0.115
伝統的な婚礼・葬儀	11.6%	6.7%	3.9%	0.000	0.103
伝統的な地鎮祭・新築祝い	15.8%	7.9%	5.3%	0.000	0.131
伝統的な先祖供養	39.0%	17.8%	15.7%	0.000	0.217
イナウを捧げる	33.7%	15.0%	13.5%	0.000	0.201
神々への祈り	30.7%	14.8%	12.4%	0.000	0.180
神聖な場所への祈り	20.1%	9.8%	8.5%	0.000	0.136
海・川・山でのタブーや約束事	13.6%	5.4%	3.9%	0.000	0.143
器物送り（モノ等を捨てるときに）	10.2%	3.4%	1.9%	0.000	0.147
まじない	9.7%	3.9%	0.9%	0.000	0.147
占いや靈をおろす人にみてもらう（トゥス）	9.4%	5.2%	2.6%	0.000	0.102
夢見を大事にする	15.8%	8.8%	5.6%	0.000	0.121

注) 「現在も実践している」「過去に体験したことがある」の割合

伝承復興活動	両親とも	片方の親のみ	その他	p	Cramer のV
アイヌ語	27.9%	20.4%	14.1%	0.000	0.116
口承文芸（ユカラ、ウェベケレ等）	17.0%	10.4%	7.2%	0.000	0.107
歌（ウポボ、座り唄等）	25.7%	16.2%	13.9%	0.000	0.111
楽器（ムックリ、トンコリ等）	26.6%	19.7%	15.7%	0.000	0.093
踊り	31.7%	20.6%	17.4%	0.000	0.123
祭事（カムイノミ等）	42.2%	23.1%	19.5%	0.000	0.191
編み物	17.7%	8.8%	9.1%	0.000	0.115
刺繍	25.4%	14.0%	16.7%	0.000	0.118
織物	15.1%	7.2%	6.9%	0.000	0.116
伝統的狩猟・農法・漁法	13.9%	8.1%	5.0%	0.000	0.109
調理・保存法	28.2%	14.6%	15.0%	0.000	0.145
木彫	19.1%	11.5%	10.5%	0.000	0.097
自然観察会（エコツアーレ等）	10.7%	6.8%	5.2%	0.000	0.073

注) 「現在関わっている」「かつて関わったことがある」

表3-9 婚姻関係類型別にみたアイヌ文化類型

		両方少ない	伝承復興多い	宗教儀礼多い	両方多い	合計
アイヌ配偶者を持つアイヌ	度数	101	26	76	239	442
	割合	22.9%	5.9%	17.2%	54.1%	100.0%
	調整済み残差	- 9.289	- 1.574	1.403	9.537	
和人配偶者を持つアイヌ	度数	431	99	211	508	1,249
	割合	34.5%	7.9%	16.9%	40.7%	100.0%
	調整済み残差	- 7.908	0.315	2.419	6.265	
未婚アイヌ	度数	458	62	92	134	746
	割合	61.4%	8.3%	12.3%	18.0%	100.0%
	調整済み残差	11.462	0.666	- 2.314	- 10.609	
和人配偶者	度数	399	62	103	216	780
	割合	51.2%	7.9%	13.2%	27.7%	100.0%
	調整済み残差	5.168	0.250	- 1.598	- 4.337	0
合計	度数	1,389	249	482	1,097	3,217
	割合	43.2%	7.7%	15.0%	34.1%	100.0%

p=0.000

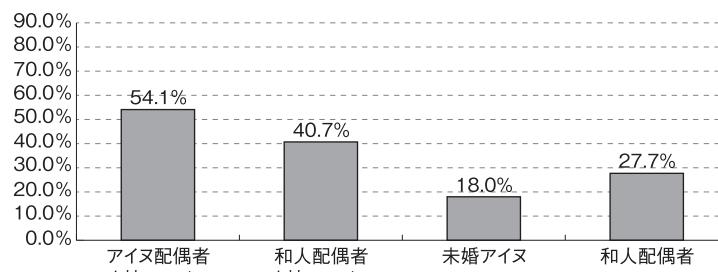


図3-6 婚姻関係類型別にみたアイヌ文化類型(「両方多い」)

表3-10 婚姻関係類型別にみたアイヌ文化(各項目)

宗教儀礼	アイヌ配偶者を持つアイヌ	和人配偶者を持つアイヌ	未婚アイヌ	和人配偶者	p	CramerのV
クマ送り	18.8%	11.4%	3.9%	3.8%	0.000	0.186
クマ送り以外の動物送り	8.6%	5.7%	1.7%	1.4%	0.000	0.131
サケを迎える儀礼	19.5%	15.3%	6.0%	8.8%	0.000	0.145
伝統的な婚礼・葬儀	12.4%	9.7%	2.7%	3.6%	0.000	0.147
伝統的な地鎮祭・新築祝い	17.6%	11.1%	4.0%	5.0%	0.000	0.163
伝統的な先祖供養	38.2%	26.7%	9.4%	15.4%	0.000	0.233
イナウを捧げる	32.8%	22.7%	8.0%	12.9%	0.000	0.213
神々への祈り	29.6%	21.6%	8.0%	12.1%	0.000	0.196
神聖な場所への祈り	17.4%	14.1%	6.3%	8.2%	0.000	0.127
海・川・山でのタブーや約束事	11.8%	8.7%	3.2%	3.6%	0.000	0.129
器物送り(モノ等を捨てるときに)	8.4%	5.8%	1.5%	1.7%	0.000	0.130
まじない	9.3%	5.6%	2.3%	0.9%	0.000	0.139
占いや靈をおろす人にみてもらう(トゥス)	9.7%	7.5%	2.3%	2.7%	0.000	0.128
夢見を大事にする	15.6%	12.2%	3.6%	5.5%	0.000	0.155

注) 「現在も実践している」「過去に体験したことがある」の割合

伝承復興活動	アイヌ配偶者を持つアイヌ	和人配偶者を持つアイヌ	未婚アイヌ	和人配偶者	p	CramerのV
アイヌ語	30.3%	23.9%	15.1%	13.1%	0.000	0.153
口承文芸(ユカラ、ウェペケレ等)	18.1%	12.8%	7.2%	6.5%	0.000	0.130
歌(ウポボ、座り唄等)	25.1%	20.6%	11.7%	13.3%	0.000	0.129
楽器(ムックリ、トンコリ等)	23.1%	23.5%	16.0%	14.7%	0.000	0.102
踊り	31.0%	25.8%	14.5%	16.5%	0.000	0.148
祭事(カムイノミ等)	42.3%	32.1%	13.4%	18.6%	0.000	0.230
編み物	19.0%	11.4%	4.7%	8.7%	0.000	0.143
刺繍	28.1%	18.0%	7.1%	16.4%	0.000	0.170
織物	14.9%	10.2%	2.9%	6.2%	0.000	0.142
伝統的狩猟・農法・漁法	14.9%	11.4%	3.4%	4.5%	0.000	0.158
調理・保存法	28.7%	20.8%	6.8%	13.8%	0.000	0.190
木彫	21.0%	14.3%	6.8%	10.0%	0.000	0.136
自然観察会(エコツアーレ等)	9.3%	8.7%	4.7%	4.7%	0.000	0.082

注) 「現在関わっている」「かつて関わったことがある」の割合

表3-11 性別×婚姻関係類型別にみたアイヌ文化類型

		両方 少ない	伝承復興 多い	宗教儀礼 多い	両方 多い	合計
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	度数	46	7	43	103	199
	割合	23.1%	3.5%	21.6%	51.8%	100.0%
	調整済み残差	- 5.898	- 2.303	2.699	5.429	
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	度数	55	19	33	136	243
	割合	22.6%	7.8%	13.6%	56.0%	100.0%
	調整済み残差	- 6.723	0.045	- 0.641	7.483	
男性×和人配偶者を持つアイヌ	度数	257	37	137	250	681
	割合	37.7%	5.4%	20.1%	36.7%	100.0%
	調整済み残差	- 3.225	- 2.542	4.220	1.625	
女性×和人配偶者を持つアイヌ	度数	174	62	74	257	567
	割合	30.7%	10.9%	13.1%	45.3%	100.0%
	調整済み残差	- 6.613	3.131	- 1.427	6.219	
男性×未婚アイヌ	度数	277	23	54	66	420
	割合	66.0%	5.5%	12.9%	15.7%	100.0%
	調整済み残差	10.109	- 1.866	- 1.315	- 8.521	
女性×未婚アイヌ	度数	181	39	38	68	326
	割合	55.5%	12.0%	11.7%	20.9%	100.0%
	調整済み残差	4.749	3.006	- 1.780	- 5.317	
男性×和人配偶者	度数	168	13	48	72	301
	割合	55.8%	4.3%	15.9%	23.9%	100.0%
	調整済み残差	4.651	- 2.336	0.487	- 3.910	
女性×和人配偶者	度数	230	49	55	144	478
	割合	48.1%	10.3%	11.5%	30.1%	100.0%
	調整済み残差	2.365	2.222	- 2.314	- 1.982	
合計		1,388	249	482	1,096	3,215
		割合	43.2%	7.7%	15.0%	34.1%
						100.0%

p=0.000

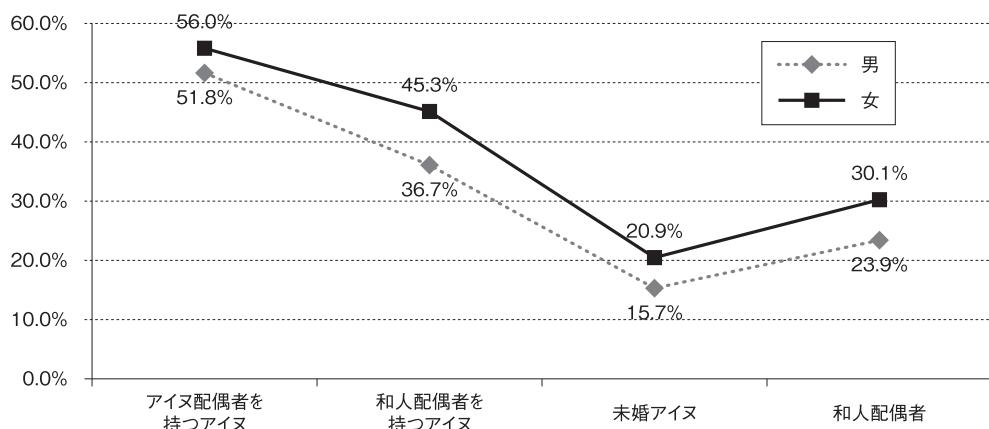


図3-7 性別×婚姻関係類型別にみたアイヌ文化類型（「両方多い」）

そこで見られる関連のあり方は、先に確認した性別と婚姻関係類型の分析から得られたものと同様である。すなわち、性別からみれば、男性よりも女性の方がアイヌ文化の経験が多く、婚姻関係類型からみれば、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」>「和人配偶者を持つアイヌ」>「和人配偶者」>「未婚アイヌ」の順でアイヌ文化の経験が多い。この点を視覚的にとらえるために図3-7を見よう。そこには「両方多い」者に限定した場合に得られる線グラフを示した。ここからは、図3-6で確認した婚姻関係類型での傾向が男女別に見ても確認できること、女性ほどアイヌ文化の経験が多いという傾向が配偶関係類型の各カテゴリー別に見ても確認できることがわかる。

ここで、図3-7をもとに女性の「和人配偶者」(和人妻)と、男性のアイヌの血筋を持つ者を比較しよう。まず、男性の「未婚アイヌ」と比べると、女性の「和人配偶者」で30.1%、男性の「未婚アイヌ」で15.7%となっており、和人妻の方でアイヌ文化の経験が多い。しかし、男性の「アイヌ配偶者を持つアイヌ」は51.8%、男性の「和人配偶者を持つアイヌ」は36.7%となっており、アイヌの血筋である者ほど文化の経験が多くなっている。ここからみれば、男女の違いにかぎらず、おおよそ婚姻関係類型によってアイヌ文化の経験の多寡が決まっていよう。すなわち、和人妻は、未婚のアイヌ男性よりもアイヌ文化の経験が多いものの、既婚のアイヌ男性よりもアイヌ文化の経験が少ない。

しかし、アイヌ文化を各項目の水準で確認すると、とくに伝承復興活動において異なった傾向を確認することができる。たとえば、表3-12から「刺繡」を見よう。そこで「刺繡」を経験している者を見ると、男性の「アイヌ配偶者を持つアイヌ」で6.0%、男性の「和人配偶者を持つアイヌ」で4.6%にすぎないのでに対し、女性の「和人配偶者」(和人妻)では25.1%の者がアイヌ文化の「刺繡」を経験していることがわかる(図3-8参照)。

表3-12 性別×婚姻関係類型別にみたアイヌ文化(各項目)

宗教儀礼	男性				女性				p:	Cramer のV:
	アイヌ 配偶者 を持つ アイヌ	和人配偶 者を持つ アイヌ	未婚 アイヌ	和人 配偶者	アイヌ 配偶者 を持つ アイヌ	和人配偶 者を持つ アイヌ	未婚 アイヌ	和人 配偶者		
クマ送り	21.6%	11.0%	4.0%	5.0%	16.5%	11.8%	3.7%	3.1%	0.000	0.190
クマ送り以外の動物送り	9.5%	6.0%	1.9%	1.3%	7.8%	5.3%	1.5%	1.5%	0.000	0.132
サケを迎える儀礼	20.1%	14.2%	4.5%	10.0%	18.9%	16.6%	8.0%	8.2%	0.000	0.150
伝統的な婚礼・葬儀	10.1%	8.5%	2.9%	4.0%	14.4%	11.1%	2.5%	3.3%	0.000	0.154
伝統的な地鎮祭・新築祝い	18.1%	9.8%	4.8%	6.0%	17.3%	12.7%	3.1%	4.4%	0.000	0.168
伝統的な先祖供養	37.7%	24.5%	8.1%	15.3%	38.7%	29.1%	11.0%	15.5%	0.000	0.236
イナウを捧げる	34.2%	22.0%	7.4%	14.3%	31.7%	23.5%	8.9%	12.1%	0.000	0.214
神々への祈り	31.7%	19.4%	7.6%	12.3%	28.0%	24.3%	8.6%	11.9%	0.000	0.201
神聖な場所への祈り	17.1%	13.2%	6.2%	7.6%	17.7%	15.2%	6.4%	8.6%	0.000	0.129
海・川・山でのタブーや約束事	11.6%	7.9%	3.3%	4.0%	11.9%	9.7%	3.1%	3.3%	0.000	0.131
器物送り(モノ等を捨てるときに)	8.0%	5.4%	1.2%	1.7%	8.6%	6.3%	1.8%	1.7%	0.000	0.131
まじない	8.5%	4.6%	1.2%	0.7%	9.9%	6.9%	3.7%	1.0%	0.000	0.148
占いや靈をおろす人にみてもらう(トゥス)	5.5%	5.9%	1.2%	1.7%	13.2%	9.3%	3.7%	3.3%	0.000	0.153
夢見を大事にする	11.6%	8.1%	2.4%	3.7%	18.9%	17.3%	5.2%	6.7%	0.000	0.193

注) 「現在も実践している」「過去に体験したことがある」の割合

伝承復興活動	男性				女性				p:	Cramer のV:
	アイヌ 配偶者 を持つ アイヌ	和人配偶 者を持つ アイヌ	未婚 アイヌ	和人 配偶者	アイヌ 配偶者 を持つ アイヌ	和人配偶 者を持つ アイヌ	未婚 アイヌ	和人 配偶者		
アイヌ語	28.1%	20.0%	11.9%	8.3%	32.1%	28.4%	19.3%	16.1%	0.000	0.179
口承文芸(ユカラ、ウェベケレ等)	12.1%	10.3%	6.0%	4.3%	23.0%	15.7%	8.9%	7.9%	0.000	0.159
歌(ウボボ、座り唄等)	12.6%	12.8%	7.6%	7.6%	35.4%	29.8%	16.9%	16.9%	0.000	0.235
楽器(ムックリ、トンコリ等)	15.1%	17.6%	11.2%	9.3%	29.6%	30.7%	22.1%	18.2%	0.000	0.181
踊り	18.1%	18.1%	10.5%	8.6%	41.6%	34.9%	19.6%	21.5%	0.000	0.239
祭事(カムイノミ等)	42.7%	30.2%	11.7%	15.3%	42.0%	34.2%	15.6%	20.7%	0.000	0.234
編み物	7.0%	5.3%	2.9%	2.0%	28.8%	18.7%	7.1%	13.0%	0.000	0.256
刺繡	6.0%	4.6%	2.6%	2.7%	46.1%	34.0%	12.9%	25.1%	0.000	0.394
織物	6.0%	4.7%	1.4%	1.7%	22.2%	16.8%	4.9%	9.0%	0.000	0.236
伝統的狩猟・農法・漁法	18.1%	14.2%	4.0%	5.3%	12.3%	8.1%	2.5%	4.0%	0.000	0.177
調理・保存法	15.6%	13.7%	4.3%	7.0%	39.5%	29.3%	10.1%	18.2%	0.000	0.270
木彫	24.6%	14.2%	8.3%	9.3%	18.1%	14.5%	4.9%	10.5%	0.000	0.144
自然観察会(エコツアーレ等)	9.0%	7.9%	3.8%	4.3%	9.5%	9.7%	5.8%	5.0%	0.001	0.087

注) 「現在関わっている」「かつて関わったことがある」の割合

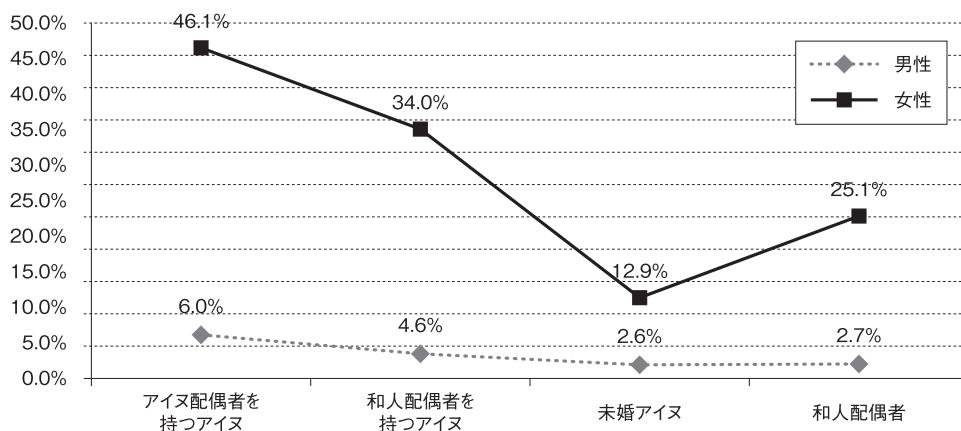


図3-8 性別×婚姻関係類型別にみたアイヌ文化（刺繡）

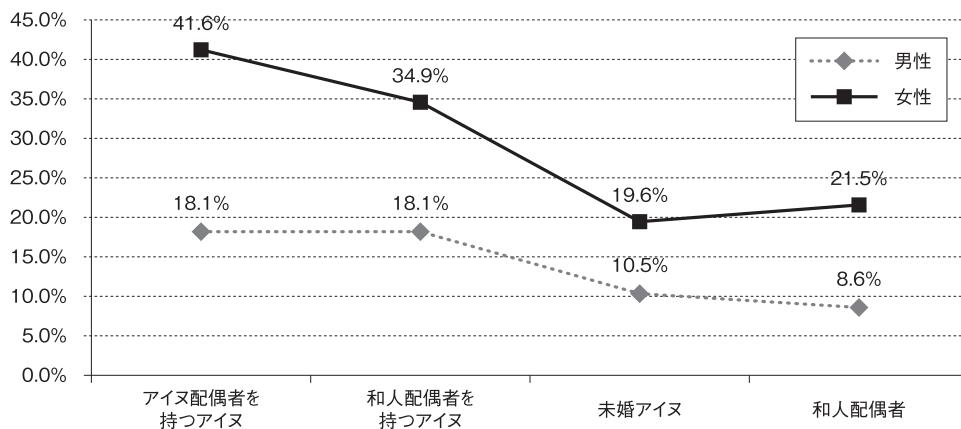


図3-9 性別×婚姻関係類型別にみたアイヌ文化（踊り）

こうした傾向は、「刺繡」の場合ほど顕著ではないものの、その他にも「編み物」「織物」などの手芸で確認することができる。さらに、「調理・保存法」や「歌（ウポポ、座り唄等）」「楽器（ムックリ、トンコリ等）」「踊り」などの芸術では、男性の既婚アイヌとほぼ同程度の割合で、和人妻はアイヌ文化を経験している（図3-9には「踊り」の場合を図示した）。

以上のように見れば、性別と婚姻関係類型を同時に考慮した場合、全体的にみれば、シンプルに婚姻関係類型で確認した傾向を確認することができるものの、手芸・芸術・調理などでは、女性の「和人配偶者」（和人妻）においては、既婚アイヌ男性と同程度もしくはそれ以上の割合でアイヌ文化を経験していることがわかる。このようにみれば、アイヌ文化の経験の分化要因について検討する際に婚姻関係類型を用いる場合にはジェンダー差を考慮する必要性があろう。

## 第2項 多変量解析

以上、世代別・性別・純血性別・婚姻関係類型別にアイヌ文化の経験を検討してきた。とはいって、上記の分析では、他の変数の影響力を考慮していない。そこで、以下、多変量解析を行おう。

その際、注意しなくてはいけないのは、婚姻関係類型は純血性をもとに作成されている点である。それゆえ、純血性と婚姻関係類型をシンプルな形で同時に独立変数として投入すると、多重共線性が高くなる<sup>5)</sup>。

そこで、ここでは、純血性と婚姻関係類型を合成した変数を作成し、それを独立変数として用いよう。具体的には、以下のような7カテゴリを持つ「純血性×婚姻関係類型」という変数を作成した。

- ・「両親ともアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」
- ・「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」
- ・「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」
- ・「片方の親のみアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」
- ・「片方の親のみアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」
- ・「片方の親のみアイヌ×未婚アイヌ」
- ・「和人配偶者」

その他に用いる独立変数は表3－13に整理した。表3－14には、アイヌ文化の経験類型を従属変数とした多項ロジスティック回帰分析の結果を整理した。

そこからは、まず、第1に、世代に関しては、クロス表分析で確認したような世代とアイヌ文化の経験の関連を確認することができる。たとえば、「両方多い」と「両方少ない」の対比（「両方多い vs 両方少ない」）を見よう。そこでは、「青年層」の  $\text{Exp} (B)$  が 0.355 で有意となっている。ここからは、「壮年層」と比べて「青年層」は、「両方少ない」より「両方多い」になる見込みが 0.355 倍であることがわかる。いいかえれば、「壮年層」において「両方少ない」ではなく「両方多い」になる見込みを 1 とすれば、「青年層」において「両方少ない」ではなく「両方多い」になる見込みは 0.355 となっている。すなわち「青年層」は「壮年層」と比べて、「両方多い」になりにくい。他方で、「老年層」においては、 $\text{Exp} (B)$  が 1.958 で有意となっており、「壮年層」と比べて「両方多い」と回答する見込みが 1.958 倍多いと判断できる。すなわち、「壮年層」よりも「老年層」の方が「両方多い」となりやすいのである。

このようにみれば、クロス表分析の際に示された世代が高くなるほどアイヌ文化を経験しているという関連は多変量解析からも確認することができる。こうした関連は、世代が高い者ほど、アイヌ文化が残っていた時期に生活していたためにもたらされたと考えられよう。

次に、第2に、性別に関しても、クロス表で確認できた関連を確認することができる。すなわち、男性よりも女性でアイヌ文化の経験が多いこと、また男性では宗教儀礼・女性では伝承復興活動が相対的に強く見られることが確認できる。はじめに、「両方多い」と「両方少ない」の対比（「両方多い vs 両方少ない」）を確認すると、ここでは「男性ダミー」の  $\text{Exp} (B)$  が 0.683 となっており、その意味で男性ほど「両方多い」となりにくく、逆にいえば「両方少ない」になりやすいことがわかる

また、「宗教儀礼」と「伝承復興」の対比（「宗教儀礼 vs 伝承復興」）を見ると、「男性ダミー」の  $\text{Exp} (B)$  は 2.838 となっており、男性ほど「伝承復興」ではなく「宗教儀礼」になる確率が高いということができる。このように、女性ほどアイヌ文化を経験している点、男性ほど宗教儀礼、

女性ほど伝承復興を経験している点は、他の変数の影響力を考慮しても確認することができる。

次に、第3に、純血性については、まずは、アイヌの「血筋」が「濃い」者ほど、アイヌ文化の経験が多いことがわかる。「両方多い」と「両方少ない」の対比（「両方多い vs 両方少ない」）を見ると、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」で Exp (B) が 1.886 と有意となっている。ここでは「純血性×婚姻関係類型」の基準カテゴリとして「片方の親のみアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」を設定してある。それゆえ、ここからは「片方の親のみ×和人配偶者を持つアイヌ」と比べて、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」は「両方多い」と回答しやすいことがわかる。その意味で、「和人配偶者を持つアイヌ」において、「片方の親のみアイヌ」の者よりも、「両親ともアイヌ」の者においてアイヌ文化の経験が多いのである。

表3-13 独立変数の概要

変数	変数の情報
世代	
青年層	青年層（20～30歳代）=1, それ以外=0
壮年層（基準カテゴリ）	
老年層	老年層（60歳代～）=1, それ以外=0
性別	
男性ダミー	男性=1, 女性=0
学歴	
小・中学校	小・中学校卒=1, その他の回答者=0
高校（基準カテゴリ）	
短大・高専・専門	短大・高専・専門卒=1, その他の回答者=0
大学	大学卒以上=1, その他の回答者=0
個人年収	なし=0, 100万円未満=100, 100～200万円未満=150, 200～300万円未満=250, 300～400万円未満=350, 400～500万円未満=450, 500～600万円未満=550, 600～700万円未満=650, 700～800万円未満=750, 800～900万円未満=850, 900～1000万円未満=950, 1000万円以上=1000
15歳時の暮らしづくり	苦しい=1, 少し困る程度=2, 少しゆとりがある=3, 豊か=4
現在の暮らしづくり	苦しい=1, 少し困る程度=2, 少しゆとりがある=3, 豊か=4
就業状態	
経営・役員	経営者・役員=1, その他の回答者=0
常時雇用（基準カテゴリ）	
自営・家族従業者	自営業・家族従業者=1, その他の回答者=0
パート・アルバイト	パート・アルバイト=1, その他の回答者=0
無職・学生	無職・学生=1, その他の回答者=0
地域	
石狩	石狩管内支庁=1, その他の回答者=0
胆振	胆振管内支庁=1, その他の回答者=0
日高	日高管内支庁=1, その他の回答者=0
釧路・根室	釧路・根室管内支庁=1, その他の回答者=0
その他（基準カテゴリ）	
純血性×婚姻関係類型（＊基準カテゴリは適宜選択する）	
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	両親ともアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ=1, その他=0
両親×和人配偶者を持つアイヌ	両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ=1, その他=0
両親×未婚アイヌ	両親ともアイヌ×未婚アイヌ=1, その他=0
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	片方の親のみアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ=1, その他=0
片方×和人配偶者を持つアイヌ	片方の親のみアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ=1, その他=0
片方×未婚アイヌ	片方の親のみアイヌ×未婚アイヌ=1, その他=0
和人配偶者	和人配偶者=1, その他=0

表3-14 多項ロジスティック回帰分析（アイヌ文化類型）

	伝承復興 vs 両方少ない				宗教儀礼 vs 両方少ない				両方多い vs 両方少ない			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
切片	-1.646	0.000	0.432	0.000	-1.262	0.000	0.318	0.000	0.630	0.000	0.251	0.012
世代（基準：壮年層）												
青年層ダミー	-0.529	0.589	0.208	0.011	-0.936	0.392	0.172	0.000	-1.036	0.355	0.136	0.000
老年層ダミー	-0.202	0.817	0.259	0.435	0.094	1.098	0.185	0.612	0.672	1.958	0.147	0.000
性別（基準：女性）												
男性ダミー	-0.978	0.376	0.193	0.000	0.066	1.068	0.145	0.651	-0.381	0.683	0.117	0.001
学歴（基準：高校）												
小中学校ダミー	0.220	1.247	0.200	0.270	0.204	1.226	0.153	0.183	0.074	1.077	0.127	0.559
専門高専短大	-0.365	0.694	0.249	0.143	0.130	1.139	0.176	0.459	0.173	1.189	0.143	0.228
大学ダミー	0.167	1.182	0.357	0.639	-0.143	0.867	0.308	0.644	0.678	1.970	0.212	0.001
個人年収	0.001	1.001	0.001	0.094	0.000	1.000	0.000	0.253	0.000	1.000	0.000	0.219
暮らしぶり（15歳時）	-0.116	0.890	0.097	0.230	-0.175	0.839	0.077	0.022	-0.151	0.860	0.061	0.013
現在の暮らしぶり	-0.102	0.903	0.110	0.352	0.120	1.128	0.086	0.160	-0.136	0.873	0.070	0.052
就業状態（基準：正規雇用）												
経営者役員	0.536	1.709	0.430	0.213	0.313	1.368	0.306	0.306	0.299	1.348	0.270	0.268
非正規雇用	0.367	1.443	0.221	0.096	0.244	1.276	0.172	0.157	0.093	1.097	0.140	0.507
自営家族従業	0.368	1.444	0.243	0.131	0.350	1.419	0.174	0.044	0.139	1.149	0.149	0.351
無職学生その他	0.460	1.584	0.253	0.070	0.226	1.254	0.203	0.266	0.262	1.299	0.159	0.100
地域（基準：その他）												
石狩ダミー	0.848	2.334	0.351	0.016	0.391	1.478	0.250	0.119	0.536	1.709	0.183	0.003
胆振ダミー	0.852	2.343	0.297	0.004	0.251	1.285	0.198	0.205	-0.123	0.885	0.152	0.419
日高ダミー	0.756	2.130	0.311	0.015	0.352	1.421	0.206	0.088	-0.091	0.913	0.161	0.573
釧路・根室ダミー	1.103	3.014	0.411	0.007	0.657	1.928	0.301	0.029	0.747	2.111	0.230	0.001
純血性×婚姻関係類型（基準：片方×和人配偶者を持つアイヌ）												
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.153	1.165	0.407	0.707	0.268	1.307	0.324	0.409	0.927	2.527	0.248	0.000
両親×和人配偶者を持つアイヌ	-0.343	0.710	0.323	0.289	0.365	1.441	0.212	0.085	0.635	1.886	0.171	0.000
両親×未婚アイヌ	-0.490	0.612	0.432	0.256	-0.177	0.838	0.317	0.578	0.062	1.064	0.236	0.792
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.100	0.904	0.318	0.752	0.501	1.650	0.227	0.027	0.326	1.386	0.194	0.093
片方×未婚アイヌ	-0.056	0.945	0.255	0.826	0.053	1.055	0.211	0.801	-0.454	0.635	0.178	0.011
和人配偶者	-0.599	0.550	0.208	0.004	-0.602	0.548	0.168	0.000	-0.743	0.476	0.133	0.000

	宗教儀礼 vs 伝承復興				両方多い vs 伝承復興				両方多い vs 宗教儀礼多い			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
切片	0.384	0.000	0.484	0.427	2.276	0.000	0.441	0.000	1.891	0.000	0.327	0.000
世代（基準：壮年層）												
青年層ダミー	-0.407	0.666	0.245	0.097	-0.507	0.602	0.220	0.021	-0.100	0.904	0.187	0.591
老年層ダミー	0.296	1.345	0.277	0.286	0.874	2.397	0.252	0.001	0.578	1.783	0.175	0.001
性別（基準：女性）												
男性ダミー	1.043	2.838	0.217	0.000	0.596	1.815	0.198	0.003	-0.447	0.640	0.148	0.003
学歴（基準：高校）												
小中学校ダミー	-0.016	0.984	0.220	0.941	-0.146	0.864	0.201	0.467	-0.130	0.878	0.154	0.399
専門高専短大	0.495	1.641	0.280	0.077	0.538	1.712	0.259	0.038	0.043	1.043	0.188	0.821
大学ダミー	-0.310	0.733	0.433	0.474	0.511	1.667	0.368	0.165	0.821	2.273	0.318	0.010
個人年収	0.000	1.000	0.001	0.438	-0.001	0.999	0.001	0.016	-0.001	0.999	0.000	0.030
暮らしぶり（15歳時）	-0.059	0.943	0.111	0.595	-0.035	0.965	0.101	0.727	0.024	1.024	0.081	0.766
現在の暮らしぶり	0.222	1.249	0.124	0.073	-0.034	0.967	0.113	0.767	-0.256	0.774	0.089	0.004
就業状態（基準：正規雇用）												
経営者役員	-0.222	0.801	0.462	0.630	-0.237	0.789	0.438	0.588	-0.015	0.986	0.310	0.962
非正規雇用	-0.123	0.884	0.251	0.625	-0.274	0.760	0.229	0.232	-0.151	0.860	0.180	0.402
自営家族従業	0.018	0.982	0.267	0.946	-0.229	0.796	0.251	0.362	-0.211	0.810	0.181	0.246
無職学生その他	-0.234	0.792	0.290	0.421	-0.198	0.820	0.260	0.447	0.036	1.036	0.207	0.864
地域（基準：その他）												
石狩ダミー	-0.457	0.633	0.396	0.248	-0.312	0.732	0.355	0.379	0.145	1.156	0.253	0.567
胆振ダミー	-0.600	0.549	0.330	0.069	-0.974	0.378	0.303	0.001	-0.374	0.688	0.205	0.068
日高ダミー	-0.405	0.667	0.344	0.240	-0.847	0.429	0.317	0.008	-0.442	0.643	0.213	0.038
釧路・根室ダミー	-0.446	0.640	0.450	0.321	-0.356	0.701	0.404	0.378	0.091	1.095	0.288	0.752

純血性×婚姻関係類型（基準：片方×和人配偶者を持つアイヌ）	0.115	1.122	0.427	0.787	0.774	2.169	0.370	0.036	0.659	1.933	0.278	0.018
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.708	2.030	0.339	0.037	0.977	2.658	0.313	0.002	0.269	1.309	0.197	0.172
両親×和人配偶者を持つアイヌ	0.314	1.369	0.495	0.526	0.553	1.738	0.445	0.214	0.239	1.270	0.334	0.474
両親×未婚アイヌ	0.601	1.824	0.334	0.072	0.427	1.533	0.311	0.169	-0.174	0.840	0.216	0.420
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.109	1.116	0.302	0.717	-0.398	0.672	0.278	0.152	-0.507	0.602	0.237	0.033
片方×未婚アイヌ	-0.004	0.996	0.240	0.988	-0.144	0.865	0.215	0.501	-0.141	0.869	0.177	0.425
和人配偶者	N=273	Cox & Snell=0.194							Nagelkerke=0.213			
									McFadden=0.089			

しかしここからは、直接的には、「和人配偶者を持つアイヌ」のみを対象とした場合に得られる純血性の影響力しか明らかとならない。そこで、その他のカテゴリを基準カテゴリとしても回帰分析を行った。そのうち「両方多い」と「両方少ない」の対比（「両方多い vs 両方少ない」）を抜き出したのが表3－15である。なお、重複となるので「純血性×婚姻関係類型」以外の変数は省略してある。

そこからは、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」のみを対象としても、「未婚アイヌ」のみを対象としても、「両親ともアイヌ」（を含むカテゴリ）ほど、アイヌ文化を経験していることがわかる。たとえば、基準カテゴリを「片方の親のみアイヌ×未婚アイヌ」とした場合の結果を見てみよう。そこで「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」のExp (B) を見ると1.574と有意となっており、その意味で「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」の者ほどアイヌ文化類型の「両方多い」になりやすいのである。

このように見れば、すべて婚姻類型カテゴリにおいて、アイヌの血筋が「濃い」者ほどアイヌ文化を経験していると判断できよう。

図3－10には、「両方多い」と「両方少ない」の対比（「両方多い vs 両方少ない」）の場合における「純血性×婚姻関係類型」のすべてのカテゴリのExp (B) を図示した<sup>6)</sup>。そこからは、上で確認してきたような傾向、すなわち、すべての婚姻関係類型のカテゴリから見て、「両親とも」（が含まれる変数）の方がアイヌ文化類型のうち「両方多い」と回答しやすいことを視覚的に確認することができよう。

ところで、さらに、純血性からは、アイヌの血筋を持たない「和人配偶者」ほどアイヌ文化の経験が少ないとすることも明らかとなる。図3－10を見ると「和人配偶者」において最も値が低く、その意味で「両方多い」になりにくいことを視覚的に確認できるからである。

実際、表3－15を見ると、「両親ともアイヌ」（を含むカテゴリ）のうち、もっとも値が低い「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」を基準とした場合を見ても、「和人配偶者」のExp (B) は0.447で有意となっている。ただし、「片方のみアイヌ×未婚アイヌ」が基準カテゴリの場合のみ、「和人配偶者」の有意確率は0.127となっている。その意味で、「片方のみアイヌ×未婚アイヌ」と「和人配偶者」には違いが見られない。とはいっても、先にも述べたように、他のカテゴリでは、和人配偶者とは有意な違いが見られる。すなわち、アイヌの血筋を持たない「和人配偶者」はアイヌ文化の経験が少ないのである。

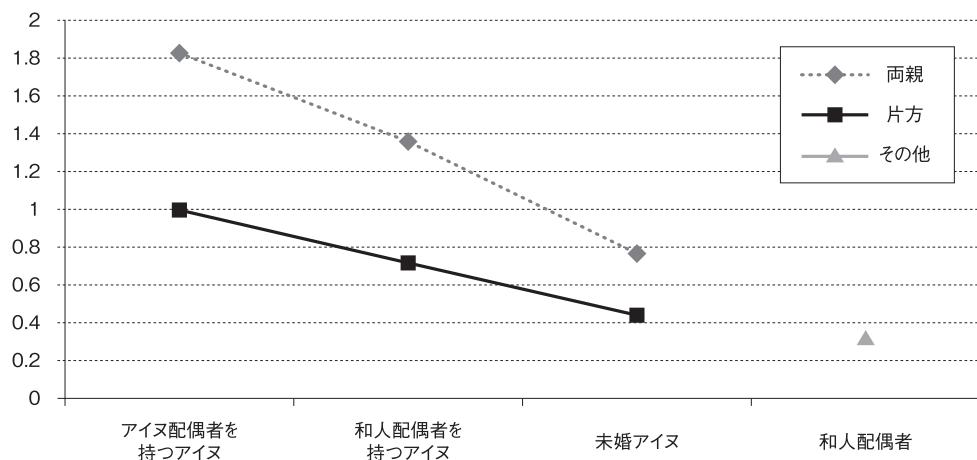
以上のように見れば、純血性の場合、クロス表で確認できたような傾向、すなわちアイヌの血筋である者ほど、アイヌの血筋が「濃い」者ほど、アイヌ文化を経験しているという傾向をおおよそ確認することができよう。

さらに、第4に、婚姻関係類型については、まずは、「和人配偶者」の動向について、クロス表分析とは異なる知見が得られることがわかる。上の純血性の分析において確認したように、「和人配偶者」は、「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」よりもアイヌ文化の経験が少ない一方、「片方の親のみアイヌ×未婚アイヌ」とは同程度にアイヌ文化の経験をしているからである。しかし、クロス表分析では、「和人配偶者」は、「未婚アイヌ」よりも多くアイヌ文化を経験していたのであった。その意味で、多変量解析から得られる知見は、クロス表で得られる知見とは異なり、「和人配偶者」は、「未婚アイヌ」よりアイヌ文化を経験しているとはいえない<sup>7)</sup>。

表3-15 多項ロジスティック回帰分析

(「両方多い」 vs 「両方少ない」) (「純血性×婚姻関係類型」のみ)

	B	Exp (B)	標準 誤差	有意 確率		B	Exp (B)	標準 誤差	有意 確率
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)				両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.601	1.823	0.285	0.035
両親×和人配偶者を持つアイヌ	-0.292	0.746	0.274	0.285	両親×和人配偶者を持つアイヌ	0.308	1.361	0.227	0.175
両親×未婚アイヌ	-0.865	0.421	0.323	0.007	両親×未婚アイヌ	-0.264	0.768	0.280	0.346
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.601	0.548	0.285	0.035	片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)			
片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.927	0.396	0.248	0.000	片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.326	0.721	0.194	0.093
片方×未婚アイヌ	-1.381	0.251	0.286	0.000	片方×未婚アイヌ	-0.780	0.458	0.235	0.001
和人配偶者	-1.670	0.188	0.250	0.000	和人配偶者	-1.070	0.343	0.200	0.000
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.292	1.340	0.274	0.285	両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.927	2.527	0.248	0.000
両親×和人配偶者を持つアイヌ	(基準)				両親×和人配偶者を持つアイヌ	0.635	1.886	0.171	0.000
両親×未婚アイヌ	-0.572	0.564	0.266	0.031	両親×未婚アイヌ	0.062	1.064	0.236	0.792
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.308	0.735	0.227	0.175	片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.326	1.386	0.194	0.093
片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.635	0.530	0.171	0.000	片方×和人配偶者を持つアイヌ	(基準)			
片方×未婚アイヌ	-1.089	0.337	0.218	0.000	片方×未婚アイヌ	-0.454	0.635	0.178	0.011
和人配偶者	-1.378	0.252	0.179	0.000	和人配偶者	-0.743	0.476	0.133	0.000
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.865	2.374	0.323	0.007	両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	1.381	3.979	0.286	0.000
両親×和人配偶者を持つアイヌ	0.572	1.772	0.266	0.031	両親×和人配偶者を持つアイヌ	1.089	2.970	0.218	0.000
両親×未婚アイヌ	(基準)				両親×未婚アイヌ	0.516	1.676	0.253	0.041
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.264	1.302	0.280	0.346	片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.780	2.182	0.235	0.001
片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.062	0.939	0.236	0.792	片方×和人配偶者を持つアイヌ	0.454	1.574	0.178	0.011
片方×未婚アイヌ	-0.516	0.597	0.253	0.041	片方×未婚アイヌ	(基準)			
和人配偶者	-0.806	0.447	0.245	0.001	和人配偶者	-0.289	0.749	0.189	0.127

図3-10 「純血性×婚姻関係類型」のオッズ比（「両方多い」 vs 「両方少ない」）  
(基準：「片方の親のみアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」)

そのうえ、婚姻関係類型からは、アイヌの血筋に限定した場合、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」＝「和人配偶者を持つアイヌ」>「未婚アイヌ」という形でアイヌ文化の経験が多いこともわかる。

まずは、再度、図3-10を確認しよう。「両親ともアイヌ」に限定しても、「片方の親のみアイヌ」に限定してみても、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」>「和人配偶者を持つアイヌ」>「未婚アイヌ」という順でアイヌ文化を経験していることを視覚的に確認できる。

また、表3-15を見ると、「未婚アイヌ」は、「両親ともアイヌ」の場合でも、「片方の親のみアイヌ」の場合でも、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」と「和人配偶者を持つアイヌ」の2者との間に有意な違いが見られる。たとえば、基準カテゴリを「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」とした場合、「両親ともアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」のExp(B)は2.374で有意、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」のExp(B)は1.772で有意となっているのである。

しかし、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」と「和人配偶者を持つアイヌ」との間では、有意な違いがあると強くはいえない。表3-15から、基準カテゴリが「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」の場合を見よう。そこで「両親ともアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」のExp(B)の有意確率は0.285であり、有意な違いが見られないのである。

他方で、基準カテゴリが「片方の親のみアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」を見ると、「片方の親のみアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」のExp(B)は1.386で有意となっている。ただし、それは10%水準で有意となっている。その意味で、違いがあるとは強くはいえないだろう。

このようにみれば、婚姻関係類型からは、アイヌの血筋の者に限定した場合、婚姻の有無によってアイヌ文化の経験に違いが見られること、しかし配偶者がアイヌか和人かによってはアイヌ文化の経験に違いが見られるとは強くはいえないことも明らかとなろう<sup>8)</sup>。

### 第3項 ジェンダー差を考慮した婚姻関係類型の多変量解析

とはいっても、婚姻関係類型については、ジェンダー差を考慮した方がよかつた。そこで、以下では、ジェンダー差を考慮した形で婚姻関係類型の分析を多変量解析で行おう。先ほど作成した性別と婚姻関係類型の2変数を掛け合わせた合成変数（以下、「性別×婚姻関係類型」）を用いて多項目ロジスティック解析を行おう。

独立変数は、先ほど用いた変数を用いる。ただし、「男性ダミー」は上記の「性別×婚姻関係類型」を用いるため除外する。また、「純血性」も「婚姻関係類型」と相関が高いのでここでは投入を控えた（なお、「純血性×性別×婚姻関係類型」という3変数を合成した変数を投入することも考えられるが全部で14カテゴリになる。ここでは解釈の容易さを優先し性別と婚姻関係類型のみを扱う）。

表3-16に結果を示した。そこからは、おおよそ表3-14と同様の傾向を確認することができる。たとえば、世代が高いほどアイヌ文化の経験が多くなっている。

それでは、「性別×婚姻関係類型」からはどのような傾向が見られるのか。ただし、先ほどの表3-14の場合と同様、1つの基準カテゴリによって直接的に検討できることは限られている。そこで、先ほどと同じく基準カテゴリを変えて分析を行った。「両方多い」と「両方少ない」の対比（「両方多い vs 両方少ない」）の場合に得られる結果を表3-17に整理した。

表3-16 多項ロジスティック回帰分析（アイヌ文化類型）（性別×婚姻関係類型）

	伝承復興		vs		両方少ない		宗教儀礼		vs		両方少ない		両方多い		vs		両方少ない	
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率		
切片	-2.747	0.000	0.466	0.000	-1.067	0.000	0.320	0.001	0.420	0.000	0.260	0.106						
世代（基準：壮年層）																		
青年層ダミー	-0.501	0.606	0.205	0.014	-0.941	0.390	0.171	0.000	-1.112	0.329	0.136	0.000						
老年層ダミー	-0.192	0.825	0.259	0.459	0.076	1.079	0.185	0.683	0.664	1.942	0.146	0.000						
学歴（基準：高校）																		
小中学校ダミー	0.213	1.237	0.199	0.286	0.198	1.219	0.153	0.197	0.105	1.110	0.126	0.406						
専門高専短大	-0.369	0.691	0.249	0.137	0.121	1.128	0.176	0.493	0.162	1.176	0.143	0.257						
大学ダミー	0.199	1.220	0.356	0.577	-0.147	0.863	0.308	0.632	0.635	1.887	0.212	0.003						
個人年収	0.001	1.001	0.001	0.074	0.000	1.000	0.000	0.409	0.000	1.000	0.000	0.260						
暮らしぶり（15歳時）	-0.111	0.895	0.097	0.250	-0.175	0.839	0.077	0.022	-0.163	0.850	0.061	0.007						
現在の暮らしぶり	-0.104	0.901	0.110	0.344	0.126	1.134	0.086	0.141	-0.135	0.873	0.070	0.052						
就業状態（基準：正規雇用）																		
経営者役員	0.545	1.725	0.432	0.207	0.316	1.372	0.307	0.304	0.282	1.326	0.270	0.295						
非正規雇用	0.360	1.433	0.221	0.104	0.242	1.273	0.172	0.161	0.108	1.114	0.139	0.440						
自営家族従業	0.367	1.444	0.245	0.133	0.350	1.419	0.175	0.045	0.124	1.132	0.149	0.405						
無職学生その他	0.466	1.594	0.254	0.066	0.236	1.266	0.204	0.247	0.285	1.330	0.159	0.073						
地域（基準：その他）																		
石狩ダミー	0.866	2.377	0.351	0.014	0.386	1.472	0.250	0.123	0.532	1.702	0.183	0.004						
胆振ダミー	0.853	2.346	0.297	0.004	0.255	1.290	0.198	0.197	-0.127	0.881	0.151	0.402						
日高ダミー	0.744	2.104	0.311	0.017	0.358	1.430	0.206	0.083	-0.099	0.906	0.161	0.538						
釧路・根室ダミー	1.094	2.987	0.410	0.008	0.639	1.894	0.301	0.034	0.765	2.149	0.229	0.001						
性別×婚姻関係類型（基準：男性×和人配偶者を持つアイヌ）																		
男性×アイヌ 配偶者を持つアイヌ	0.115	1.121	0.455	0.801	0.568	1.764	0.260	0.029	0.680	1.973	0.228	0.003						
女性×アイヌ 配偶者を持つアイヌ	0.963	2.621	0.355	0.007	-0.010	0.990	0.282	0.971	0.548	1.730	0.219	0.012						
女性×和人配偶者を持つアイヌ	1.030	2.802	0.285	0.000	-0.096	0.908	0.217	0.657	0.427	1.532	0.171	0.012						
男性×未婚アイヌ	0.040	1.041	0.336	0.904	-0.247	0.781	0.234	0.292	-0.462	0.630	0.202	0.022						
女性×未婚アイヌ	0.871	2.390	0.331	0.008	0.014	1.014	0.263	0.957	0.029	1.030	0.216	0.892						
男性×和人配偶者	-0.586	0.556	0.357	0.101	-0.654	0.520	0.217	0.003	-0.969	0.379	0.191	0.000						
女性×和人配偶者	0.513	1.670	0.299	0.086	-0.828	0.437	0.236	0.000	-0.476	0.621	0.180	0.008						
宗教儀礼																		
	宗教儀礼		vs 伝承復興		両方多い		vs 伝承復興		両方多い		vs 宗教儀礼							
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)
切片	1.680	0.000	0.511	0.001	3.166	0.000	0.474	0.000	1.487	0.000	0.328	0.000						
世代（基準：壮年層）																		
青年層ダミー	-0.439	0.644	0.242	0.069	-0.610	0.543	0.217	0.005	-0.171	0.843	0.185	0.355						
老年層ダミー	0.268	1.307	0.277	0.335	0.855	2.352	0.251	0.001	0.588	1.800	0.175	0.001						
学歴（基準：高校）																		
小中学校ダミー	-0.015	0.985	0.220	0.946	-0.108	0.897	0.200	0.589	-0.093	0.911	0.154	0.543						
専門高専短大	0.490	1.633	0.279	0.079	0.531	1.701	0.258	0.039	0.041	1.042	0.187	0.826						
大学ダミー	-0.346	0.707	0.431	0.422	0.436	1.547	0.367	0.234	0.782	2.187	0.317	0.013						
個人年収	-0.001	0.999	0.001	0.270	-0.001	0.999	0.001	0.014	-0.001	0.999	0.000	0.073						
暮らしぶり（15歳時）	-0.064	0.938	0.111	0.564	-0.052	0.949	0.100	0.604	0.012	1.012	0.080	0.880						
現在の暮らしぶり	0.230	1.259	0.124	0.064	-0.031	0.969	0.113	0.781	-0.261	0.770	0.088	0.003						
就業状態（基準：正規雇用）																		
経営者役員	-0.229	0.795	0.463	0.620	-0.263	0.769	0.437	0.548	0.034	0.967	0.310	0.913						
非正規雇用	-0.118	0.889	0.251	0.639	-0.252	0.777	0.229	0.271	-0.134	0.875	0.180	0.456						
自営家族従業	-0.017	0.983	0.268	0.949	-0.243	0.784	0.251	0.334	-0.225	0.798	0.182	0.214						
無職学生その他	-0.231	0.794	0.291	0.427	-0.181	0.834	0.260	0.486	0.050	1.051	0.207	0.811						
地域（基準：その他）																		
石狩ダミー	-0.479	0.619	0.395	0.225	-0.334	0.716	0.354	0.345	0.145	1.157	0.253	0.566						
胆振ダミー	-0.598	0.550	0.330	0.070	-0.979	0.376	0.302	0.001	-0.382	0.683	0.204	0.061						
日高ダミー	-0.386	0.680	0.344	0.261	0.843	0.431	0.316	0.008	-0.457	0.633	0.212	0.031						
釧路・根室ダミー	-0.455	0.634	0.450	0.311	-0.329	0.719	0.403	0.413	0.126	1.134	0.286	0.660						
性別×婚姻関係類型（基準：男性×和人配偶者を持つアイヌ）																		
男性×アイヌ 配偶者を持つアイヌ	0.453	1.573	0.457	0.322	0.565	1.760	0.440	0.200	0.112	1.118	0.231	0.628						
女性×アイヌ 配偶者を持つアイヌ	-0.974	0.378	0.386	0.012	-0.416	0.660	0.343	0.226	0.558	1.747	0.263	0.034						
女性×和人配偶者を持つアイヌ	-1.127	0.324	0.314	0.000	-0.604	0.547	0.284	0.033	0.523	1.687	0.212	0.014						
男性×未婚アイヌ	-0.287	0.750	0.376	0.445	-0.503	0.605	0.356	0.158	-0.215	0.806	0.262	0.411						
女性×未婚アイヌ	-0.857	0.424	0.381	0.025	-0.842	0.431	0.349	0.016	0.015	1.015	0.285	0.957						
男性×和人配偶者	-0.068	0.935	0.386	0.861	-0.383	0.682	0.372	0.304	-0.315	0.730	0.240	0.188						
女性×和人配偶者	-1.341	0.262	0.342	0.000	-0.989	0.372	0.306	0.001	0.352	1.422	0.242	0.147						

N=2723

Cox と Snell=0.185

Nagelkerke=0.203

McFadden=0.084

さらに、表3-17から検討できる「性別×婚姻関係類型」の各カテゴリ間のすべての組み合わせについての有意性検定の結果を表3-18に整理した。そこからは、表頭におかれているカテゴリを基準とした場合、表側のカテゴリが有意に異なるかどうかがわかる。ここでは直感的に把握しやすいように対数オッズ比を記載した。もし値がプラスであれば、表側のカテゴリは表頭のカテゴリよりも有意に高く、その意味でアイヌ文化の経験類型が「両方多い」になりやすい。逆にいえば、もし値がマイナスであれば、表側のカテゴリは表頭のカテゴリよりもアイヌ文化の経験類型が「両方多い」になりにくい。また、有意な違いが見られなかったものにはイコール(=)を示した。さらに、図3-11には「両方多い vs 両方少ない」の場合に得られるExp(B)を図3-10と同様に示した(なお、基準カテゴリは、「男性×和人配偶者を持つアイヌ」にした)。

視覚的に確認しやすい図3-11を見よう。そこからは、男性の場合も女性の場合も、「アイヌ配偶者を持つアイヌ」>「和人配偶者を持つアイヌ」>「未婚アイヌ」>「和人配偶者」の順でアイヌ文化類型を「両方多い」と回答しやすいことがわかる。

ここからは、まずは、図3-10で確認したのと同様に、「性別×婚姻関係類型」から見ても、クロス表で確認した「未婚アイヌ」よりも「和人配偶者」の方でアイヌ文化の経験が多いという点は確認できないことがわかる。むしろ、男性から見ても、女性から見ても、「未婚アイヌ」の方でアイヌ文化類型が「両方多い」になりやすい。

しかし、「性別×婚姻関係類型」を用いてとくに注目したいのは、「女性×和人配偶者」つまり和人妻の動向であった。そこで、図3-11から「女性×和人配偶者」と男性アイヌの違いを考察しよう。なお、図3-11には有意な違いが見られないカテゴリ同士を点線の丸で囲ってある。

そこからは、「女性×和人配偶者」と男性の「未婚アイヌ」とは有意な違いが見られず、その意味で和人妻と男性の「未婚アイヌ」とはほぼ同程度にアイヌ文化を体験していることがわかる。

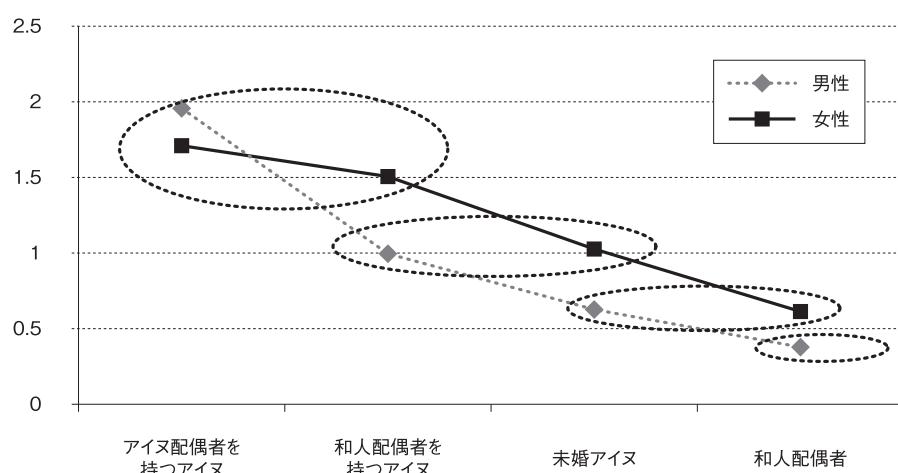


図3-11 「性別×婚姻関係類型」のオッズ比(Exp(B))(「両方多い」vs「両方少ない」)  
(基準:「男性×和人配偶者を持つアイヌ」)

表3-17 多項ロジスティック回帰分析（「両方多い」vs「両方少ない」）（「性別×婚姻関係類型」のみ）

	両方多い vs 両方少ない					両方多い vs 両方少ない			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率		B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイス配偶者を持つアイス	(基準)				男性×アイス配偶者を持つアイス	0.132	1.141	0.276	0.633
女性×アイス配偶者を持つアイス	-0.132	0.877	0.276	0.633	女性×アイス配偶者を持つアイス	(基準)			
男性×和人配偶者を持つアイス	-0.680	0.507	0.228	0.003	男性×和人配偶者を持つアイス	-0.548	0.578	0.219	0.012
女性×和人配偶者を持つアイス	-0.253	0.777	0.243	0.299	女性×和人配偶者を持つアイス	-0.121	0.886	0.214	0.572
男性×未婚アイス	-1.142	0.319	0.270	0.000	男性×未婚アイス	-1.010	0.364	0.252	0.000
女性×未婚アイス	-0.650	0.522	0.280	0.020	女性×未婚アイス	-0.518	0.595	0.258	0.045
男性×和人配偶者	-1.649	0.192	0.261	0.000	男性×和人配偶者	-1.517	0.219	0.252	0.000
女性×和人配偶者	-1.155	0.315	0.250	0.000	女性×和人配偶者	-1.024	0.359	0.220	0.000
男性×アイス配偶者を持つアイス	0.680	1.973	0.228	0.003	男性×アイス配偶者を持つアイス	0.253	1.288	0.243	0.299
女性×アイス配偶者を持つアイス	0.548	1.730	0.219	0.012	女性×アイス配偶者を持つアイス	0.121	1.129	0.214	0.572
男性×和人配偶者を持つアイス	(基準)				男性×和人配偶者を持つアイス	-0.427	0.653	0.171	0.012
女性×和人配偶者を持つアイス	0.427	1.532	0.171	0.012	女性×和人配偶者を持つアイス	(基準)			
男性×未婚アイス	-0.462	0.630	0.202	0.022	男性×未婚アイス	-0.889	0.411	0.204	0.000
女性×未婚アイス	0.029	1.030	0.216	0.892	女性×未婚アイス	-0.397	0.672	0.210	0.058
男性×和人配偶者	-0.969	0.379	0.191	0.000	男性×和人配偶者	-1.396	0.248	0.212	0.000
女性×和人配偶者	-0.476	0.621	0.180	0.008	女性×和人配偶者	-0.902	0.406	0.166	0.000
男性×アイス配偶者を持つアイス	1.142	3.133	0.270	0.000	男性×アイス配偶者を持つアイス	0.650	1.916	0.280	0.020
女性×アイス配偶者を持つアイス	1.010	2.746	0.252	0.000	女性×アイス配偶者を持つアイス	0.518	1.679	0.258	0.045
男性×和人配偶者を持つアイス	0.462	1.588	0.202	0.022	男性×和人配偶者を持つアイス	-0.029	0.971	0.216	0.892
女性×和人配偶者を持つアイス	0.889	2.433	0.204	0.000	女性×和人配偶者を持つアイス	0.397	1.488	0.210	0.058
男性×未婚アイス	(基準)				男性×未婚アイス	-0.492	0.611	0.221	0.026
女性×未婚アイス	0.492	1.635	0.221	0.026	女性×未婚アイス	(基準)			
男性×和人配偶者	-0.507	0.602	0.242	0.036	男性×和人配偶者	-0.999	0.368	0.254	0.000
女性×和人配偶者	-0.013	0.987	0.215	0.951	女性×和人配偶者	-0.505	0.603	0.221	0.022
男性×アイス配偶者を持つアイス	1.649	5.201	0.261	0.000	男性×アイス配偶者を持つアイス	1.155	3.175	0.250	0.000
女性×アイス配偶者を持つアイス	1.517	4.559	0.252	0.000	女性×アイス配偶者を持つアイス	1.024	2.783	0.220	0.000
男性×和人配偶者を持つアイス	0.969	2.636	0.191	0.000	男性×和人配偶者を持つアイス	0.476	1.609	0.180	0.008
女性×和人配偶者を持つアイス	1.396	4.039	0.212	0.000	女性×和人配偶者を持つアイス	0.902	2.466	0.166	0.000
男性×未婚アイス	0.507	1.660	0.242	0.036	男性×未婚アイス	0.013	1.013	0.215	0.951
女性×未婚アイス	0.999	2.715	0.254	0.000	女性×未婚アイス	0.505	1.657	0.221	0.022
男性×和人配偶者	(基準)				男性×和人配偶者	-0.494	0.610	0.218	0.024
女性×和人配偶者	0.494	1.638	0.218	0.024	女性×和人配偶者	(基準)			

表3-18 多項ロジスティック回帰分析（各カテゴリ間の有意性検定）

（「両方多い」vs「両方少ない」）（「性別×婚姻関係類型」のみ）

	基準（対数オッズ比=1）							
	男性×アイス配偶者を持つアイス	女性×アイス配偶者を持つアイス	男性×和人配偶者を持つアイス	女性×和人配偶者を持つアイス	男性×未婚アイス	女性×未婚アイス	男性×和人配偶者	女性×和人配偶者
男性×アイス配偶者を持つアイス								
女性×アイス配偶者を持つアイス	=							
男性×和人配偶者を持つアイス	-0.680	-0.548						
女性×和人配偶者を持つアイス	=	=	0.427					
男性×未婚アイス	-1.142	-1.010	-0.462	-0.889				
女性×未婚アイス	-0.650	-0.518	=	-0.397	0.492			
男性×和人配偶者	-1.649	-1.517	-0.969	-1.396	-0.507	-0.999		
女性×和人配偶者	-1.155	-1.024	-0.476	-0.902	=	-0.505	0.494	

ここから、先ほどの知見をふまえれば、すなわち、和人妻は、女性の「未婚アイヌ」の者よりはアイヌ文化の経験が少ないものの、男性の「未婚アイヌ」とほぼ同程度の割合でアイヌ文化を経験していることがわかる。他方で、「女性×和人配偶者」は、「男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ」と「男性×和人配偶者を持つアイヌ」と比べると有意に値が低い。

このように見れば、和人妻は、男性の「未婚アイヌ」と同程度の割合でアイヌ文化を経験しているものの、男性の既婚アイヌと比べれば、アイヌ文化を経験しているわけではないと整理することができよう。

ただし、アイヌ文化を各項目から見ると、全体的な傾向とは異なる傾向も確認できる可能性がある。クロス表分析においては、手芸や芸術などで、和人妻はアイヌ男性よりも、もしくは同程度にアイヌ文化を経験していたからである。それゆえ、この点も多変量解析で検討してみよう。

そこで、アイヌ文化の各項目を従属変数としたロジスティック回帰分析を行った。従属変数は、具体的には、宗教儀礼の場合には「現在も実践している」と「過去に体験したことがある」を1に、それ以外を0にした2値変数を、伝承復興活動の場合には「現在関わっている」「かつて関わったことがある」を1に、それ以外を0にした2値変数を用いた。独立変数は、表3-16で用いたものを使った。すべての分析結果を示すと煩雑になるので、「性別×婚姻関係類型」のExp (B) を項目ごとに図示した。宗教儀礼を図3-12に、伝承復興活動を図3-13に示した(なお、基準は「男性×和人配偶者を持つアイヌ」とした)。

そこからは、クロス表で明らかになった知見を確認することができる。たとえば、図3-13から「刺繡」をみよう。その線グラフの形状は、図3-8で確認したクロス表の値とほぼ同様のものである。具体的に、各カテゴリ間の有意性を検定してみよう。表3-19には、伝承復興活動の場合の「性別×婚姻関係類型」の結果を示した。なお、和人妻の動向に興味があるので、基準は「女性×和人配偶者」(和人妻)としてある。

そこから、「刺繡」の場合を見ると、男性のカテゴリのExp (B) がすべて1より低く有意であり、その意味で、「女性×和人配偶者」よりも「刺繡」を経験していない。逆にいえば、和人妻は、アイヌ男性より「刺繡」を経験している。

引き続き図3-13と表3-19を見ていくと、こうした傾向は、その他にも「編み物」「織物」「調理・保存法」で確認できる。また、「口承文芸（ユカラ、ウェペケレ等）」「楽器（ムックリ、トンコリ）等」「踊り」に関しては、アイヌ男性のすべてのカテゴリと有意な違いが見られず、その意味でアイヌ男性と同程度の体験をしている。

このように見れば、ジェンダー差を考慮した婚姻関係類型からは、和人妻は、全般的には、未婚アイヌの男性と同程度にアイヌ文化を経験しているものの、手芸・調理・芸術等に関しては、既婚者を含めたアイヌ男性と同程度、さらにはそれ以上にアイヌ文化を経験しているといえよう。

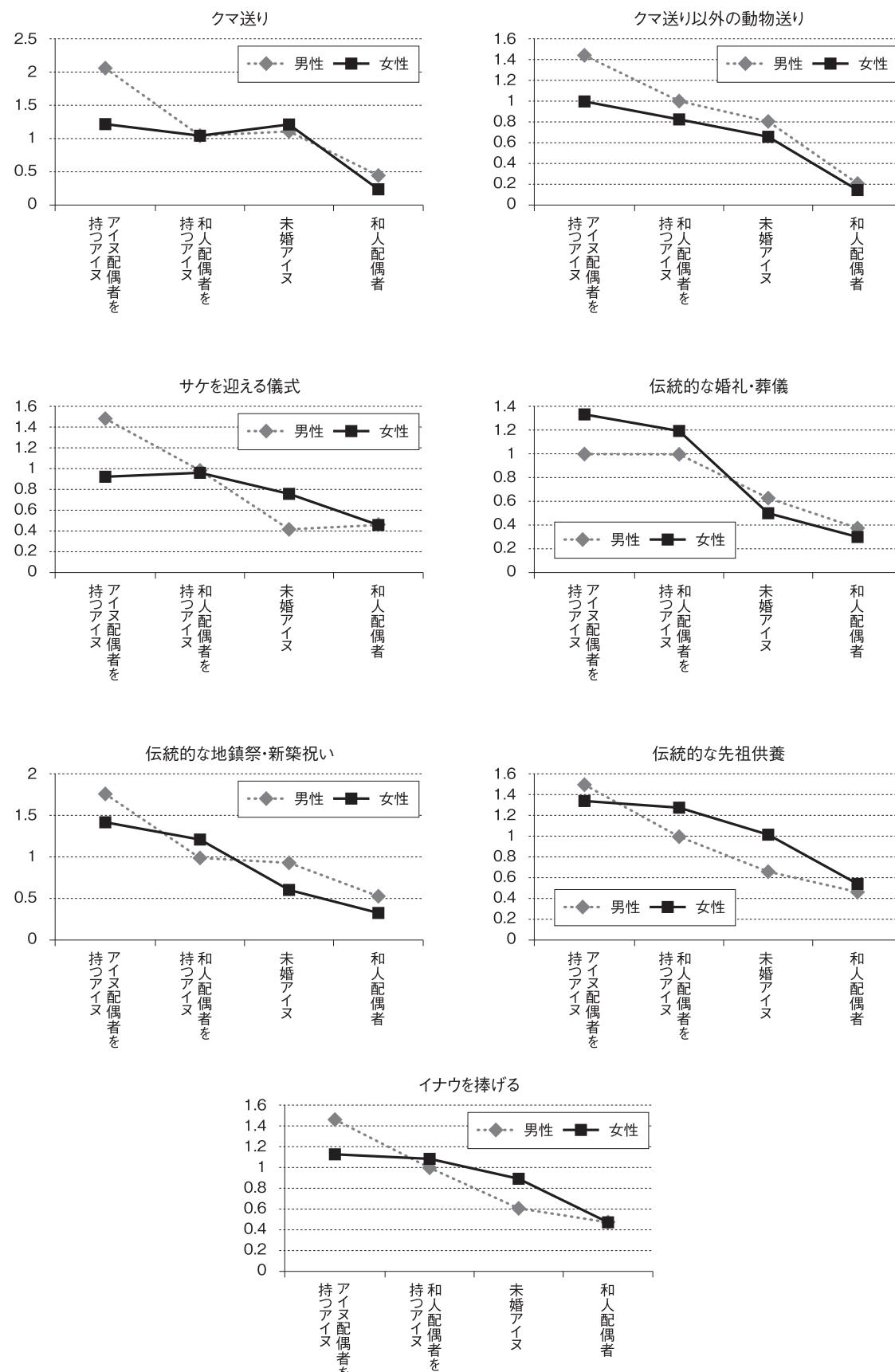


図3-12 「性別×婚姻関係類型」のオッズ比 (Exp (B)) (宗教儀礼)  
(基準：「男性×和人配偶者を持つアイヌ」)

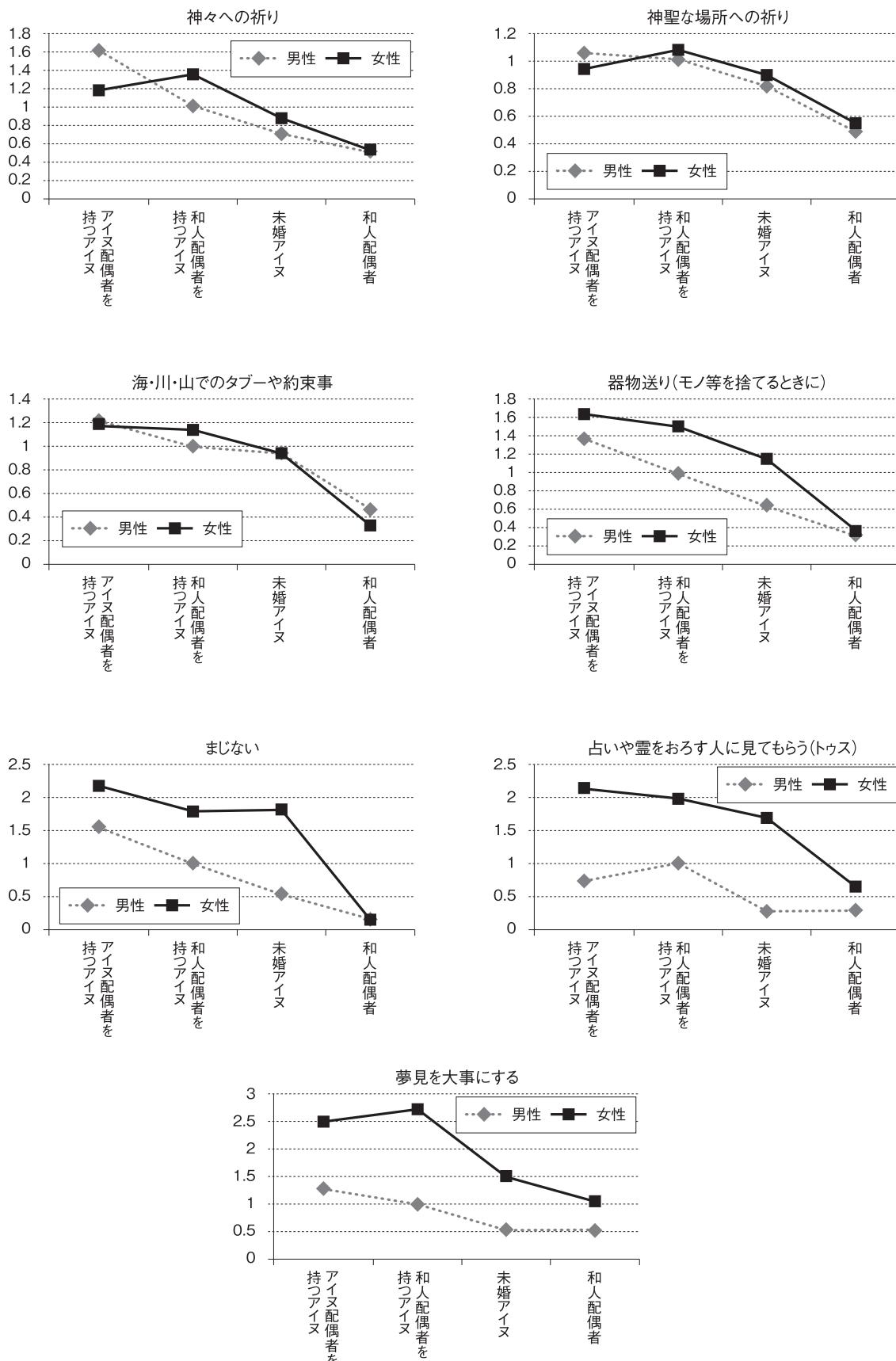


図3-12 「性別×婚姻関係類型」のオッズ比 (Exp (B))(宗教儀礼)(続き)  
(基準：「男性×和人配偶者を持つアイヌ」)

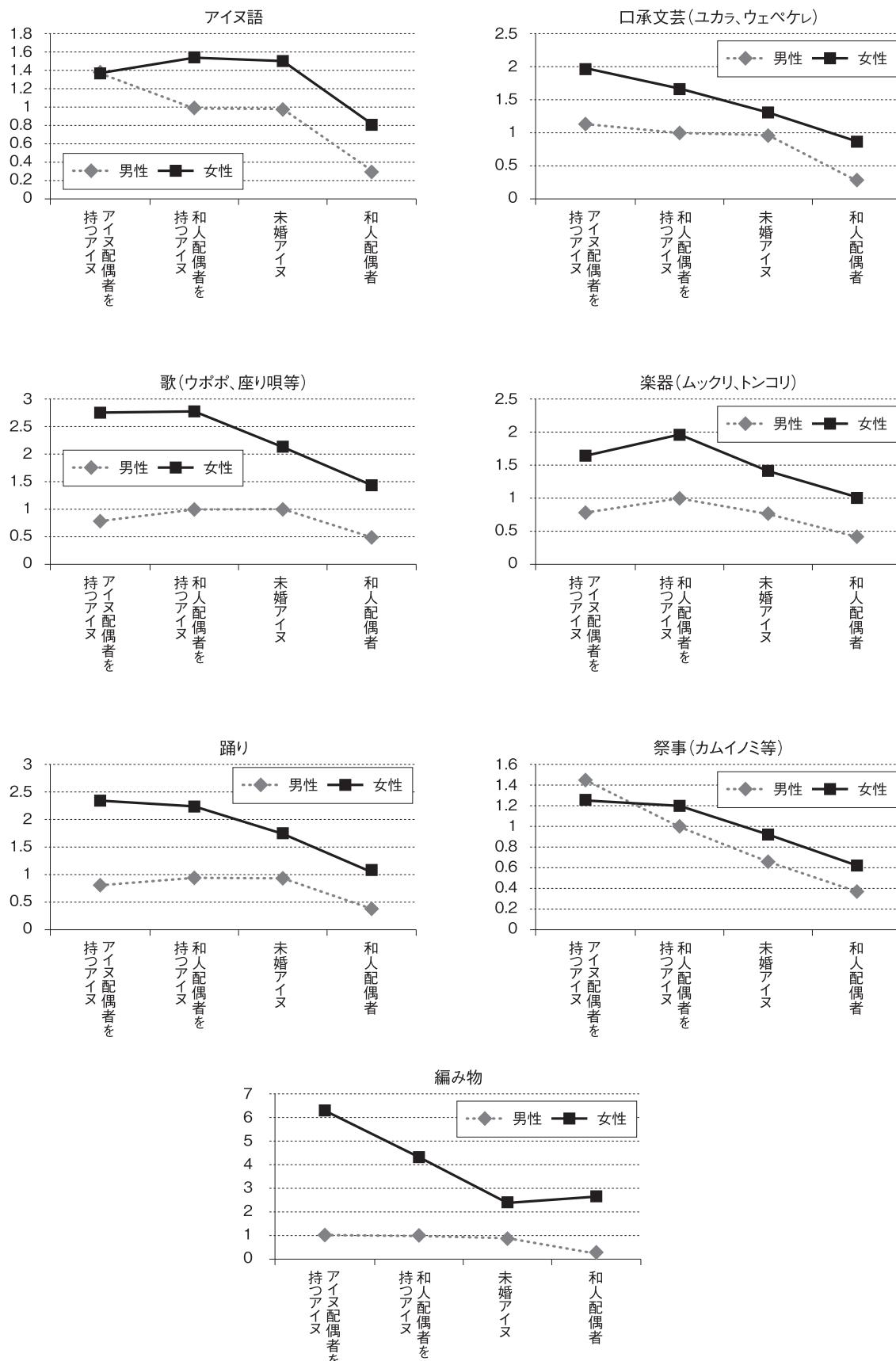


図3-13 「性別×婚姻関係類型」のオッズ比 (Exp (B)) (伝承復興)  
(基準：「男性×和人配偶者を持つアイヌ」)

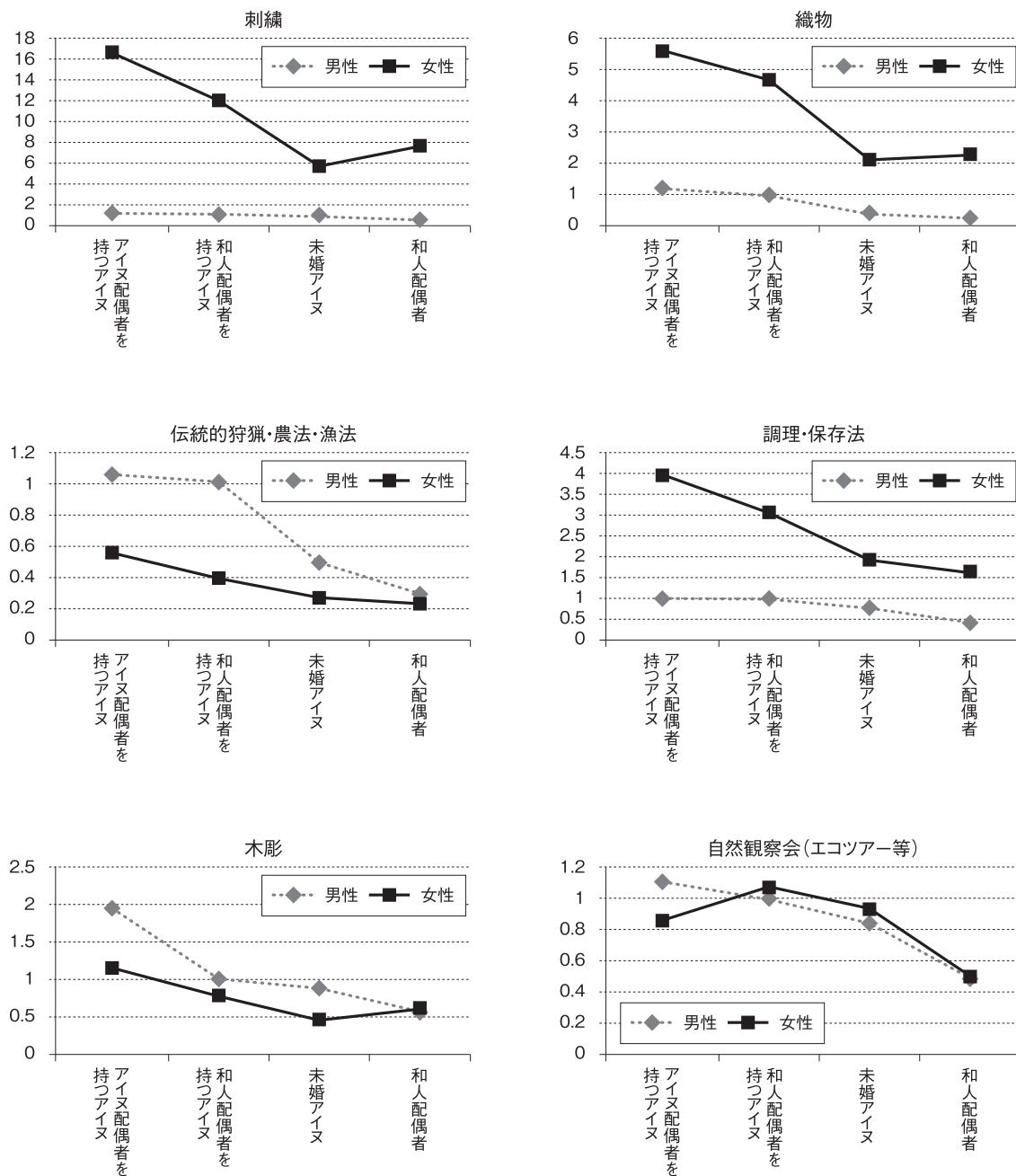


図3-13 「性別×婚姻関係類型」のオッズ比 (Exp (B)) (伝承復興)(続き)  
(基準：「男性×和人配偶者を持つアイヌ」)

表3-19 二項ロジスティック回帰（伝承復興）

(「性別×婚姻関係類型」) (基準:「女性×和人配偶者」) (N = 2,723)

	アイヌ語				口承文芸(ユカラ、ウェベケレ等)				歌(ウポボ、座り唄等)			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.538	1.713	0.232	0.020	0.256	1.291	0.310	0.410	-0.606	0.546	0.286	0.034
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.521	1.683	0.212	0.014	0.808	2.242	0.263	0.002	0.646	1.908	0.209	0.002
男性×和人配偶者を持つアイヌ	0.204	1.227	0.192	0.288	0.129	1.137	0.257	0.616	-0.363	0.696	0.208	0.082
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.640	1.897	0.172	0.000	0.636	1.889	0.226	0.005	0.655	1.926	0.170	0.000
男性×未婚アイヌ	0.191	1.210	0.230	0.408	0.093	1.098	0.313	0.765	-0.360	0.698	0.256	0.160
女性×未婚アイヌ	0.615	1.850	0.231	0.008	0.403	1.496	0.315	0.201	0.393	1.482	0.237	0.097
男性×和人配偶者	-0.992	0.371	0.285	0.001	-1.121	0.326	0.394	0.004	-1.059	0.347	0.297	0.000
女性×和人配偶者	(基準)				(基準)				(基準)			
Cox & Snell=0.057				Cox & Snell=0.059				Cox & Snell=0.076				
	樂器(ムックリ、トンコリ等)				踊り				祭事(カムイノミ等)			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.215	0.807	0.264	0.415	-0.318	0.727	0.250	0.204	0.842	2.320	0.218	0.000
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.505	1.657	0.213	0.018	0.750	2.116	0.197	0.000	0.693	2.000	0.200	0.001
男性×和人配偶者を持つアイヌ	0.015	1.015	0.194	0.940	-0.119	0.888	0.188	0.527	0.464	1.591	0.178	0.009
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.675	1.965	0.167	0.000	0.697	2.007	0.160	0.000	0.643	1.902	0.163	0.000
男性×未婚アイヌ	-0.244	0.783	0.234	0.296	-0.159	0.853	0.232	0.492	0.056	1.058	0.228	0.805
女性×未婚アイヌ	0.367	1.443	0.224	0.101	0.464	1.590	0.222	0.037	0.391	1.478	0.231	0.090
男性×和人配偶者	-0.797	0.451	0.270	0.003	-0.962	0.382	0.268	0.000	-0.533	0.587	0.233	0.022
女性×和人配偶者	(基準)				(基準)				(基準)			
Cox & Snell=0.055				Cox & Snell=0.078				Cox & Snell=0.106				
	編み物				刺繡				織物			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.902	0.406	0.358	0.012	-1.721	0.179	0.342	0.000	-0.622	0.537	0.383	0.104
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.841	2.318	0.230	0.000	0.764	2.147	0.196	0.000	0.869	2.385	0.260	0.001
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.991	0.371	0.273	0.000	-2.050	0.129	0.270	0.000	-0.856	0.425	0.304	0.005
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.476	1.610	0.197	0.016	0.437	1.549	0.159	0.006	0.688	1.990	0.220	0.002
男性×未婚アイヌ	-1.039	0.354	0.374	0.005	-1.977	0.138	0.367	0.000	-1.550	0.212	0.509	0.002
女性×未婚アイヌ	-0.092	0.912	0.314	0.770	-0.299	0.742	0.251	0.233	-0.085	0.919	0.351	0.809
男性×和人配偶者	-2.142	0.117	0.497	0.000	-2.571	0.076	0.422	0.000	-2.089	0.124	0.555	0.000
女性×和人配偶者	(基準)				(基準)				(基準)			
Cox & Snell=0.086				Cox & Snell=0.174				Cox & Snell=0.067				
	伝統的狩獵・農法・漁法				調理・保存法				木彫			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	1.491	4.444	0.337	0.000	-0.451	0.637	0.266	0.090	1.152	3.164	0.266	0.000
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.865	2.375	0.339	0.011	0.884	2.421	0.205	0.000	0.634	1.886	0.257	0.014
男性×和人配偶者を持つアイヌ	1.430	4.181	0.298	0.000	-0.482	0.618	0.209	0.021	0.474	1.607	0.231	0.040
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.524	1.690	0.303	0.083	0.638	1.893	0.171	0.000	0.264	1.302	0.216	0.222
男性×未婚アイヌ	0.733	2.082	0.392	0.061	-0.744	0.475	0.301	0.013	0.381	1.464	0.280	0.174
女性×未婚アイヌ	0.147	1.158	0.481	0.760	0.167	1.182	0.268	0.533	-0.243	0.784	0.337	0.472
男性×和人配偶者	0.257	1.294	0.388	0.507	-1.330	0.265	0.304	0.000	-0.046	0.955	0.297	0.878
女性×和人配偶者	(基準)				(基準)				(基準)			
Cox & Snell=0.058				Cox & Snell=0.117				Cox & Snell=0.055				
	自然観察会(エコツアーア等)											
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率								
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.788	2.199	0.367	0.032								
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.551	1.736	0.348	0.113								
男性×和人配偶者を持つアイヌ	0.680	1.975	0.312	0.029								
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.741	2.097	0.284	0.009								
男性×未婚アイヌ	0.508	1.662	0.386	0.188								
女性×未婚アイヌ	0.611	1.843	0.397	0.123								
男性×和人配偶者	-0.035	0.966	0.411	0.932								
女性×和人配偶者	(基準)											
Cox & Snell=0.031												

## 第4節 アイヌ文化の将来展望

### 第1項 分散分析

次に、アイヌ文化と将来関わりたいかという論点を検討しよう。アイヌ文化の将来展望を捉える際には、第2節で作成した変数を用いる。まず、図3-14～図3-17から世代別、性別、純血性別、婚姻関係別にアイヌ文化の将来展望が異なるかを分散分析で検討した結果を確認しよう。

そこからは、世代別、性別、婚姻関係類型別に見ると、それらによってアイヌ文化の将来展望には違いが見られないことがわかる。たとえば、図3-14から世代別に見たアイヌ文化の将来展望を確認すると、青年層で3.055項目、壮年層で3.190項目、老年層で2.976項目となっており、大きな違いが見られない。さらに、F値が0.681で有意確率が0.505となっており、有意水準をクリアしていないのである。

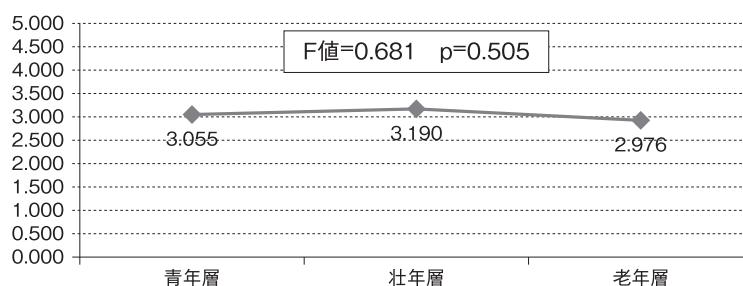


図3-14 世代別にみたアイヌ文化の将来展望



図3-15 性別にみたアイヌ文化の将来展望

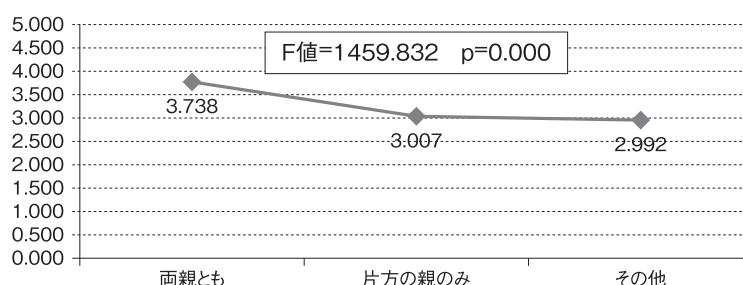


図3-16 純血性別にみたアイヌ文化の将来展望



図3-17 婚姻関係別にみたアイヌ文化の将来展望

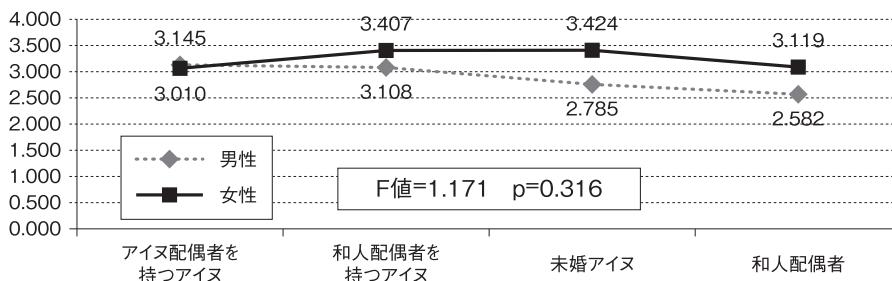


図3-18 性別×婚姻関係別にみたアイヌ文化の将来展望

しかし、純血性別にアイヌ文化の将来展望を確認した図3-16を見るとF値が1459.832、有意確率が0.000となっており、純血性によっては有意な違いが見られると判断できる。具体的に値を確認すると、「両親とも」で3.738項目となっているのに対し、「片方の親のみ」では3.007、「その他」では2.992にすぎない。ここからは、とくに「両親とも」アイヌの血筋である者において、将来展望が多く見られることがわかる。

さらに、図3-18からジェンダー差を考慮した形で婚姻関係類型を検討しよう。そこで第3節で用いた「性別×婚姻関係類型」別に分散分析を行った。しかし、F値が1.171で、有意確率が0.316となっており、有意水準をクリアしていない。その意味で、「性別×婚姻関係類型」のカテゴリの間では有意な違いが見られない。

しかし、こうした知見は、他の変数の影響を考慮して得られたものではない。そこで以下、多変量解析を行おう。

## 第2項 多変量解析

そこで、アイヌ文化の将来展望を従属変数とした重回帰分析を行った。独立変数は表3-13で示したもの用いる。また、第2節でアイヌ文化の経験が多いほど将来もアイヌ文化と関わりたいという関連が見られたので、アイヌ文化の経験も独立変数として投入しよう。具体的には、第2節で作成したアイヌ文化の経験類型を用いる。結果を表3-20に整理した。

そこからは、第1に、性別と文化の経験に関しては、分散分析で得られた知見と同様の知見が得られることがわかる。たとえば、「男性ダミー」を見ると、有意確率が0.355であり、その意味で性別によってアイヌ文化の将来展望に違いが見られない。また、アイヌ文化類型のうち「両方多い」

を見ると回帰係数が1.462、有意確率が0.000であり、「両方多い」者ほどアイヌ文化の将来展望も多くなっている。

しかし、第2に、世代に関しては、分散分析の結果とは異なる知見が得られる。具体的には、「老年層」において回帰係数 - 0.509、有意確率が0.039となっており有意水準をクリアしている。すなわち、「老年層」においては将来展望が少ない。こうした「老年層」における将来展望の少なさは、もうすでに十分にアイヌ文化を経験しているという側面と、加齢によって新しいことにチャレンジするということが下の世代の者と比べて難しくなっているという側面によってもたらされている可能性があろう<sup>9)</sup>。

さらに、第3に純血性と婚姻関係類型を検討しよう。ここでは第3節で述べたように「純血性×婚姻関係類型」という変数を用いる。表3-20では基準カテゴリを「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」としてある。ここからは、「両親ともアイヌ×未婚」以外のすべてのカテゴリ

表3-20 重回帰分析（アイヌ文化の将来展望）

	非標準化係数 B	標準化係数 ベータ	標準誤差	有意確率
(定数)	4.003	0.000	0.535	0.000
世代（基準：壮年層）				
青年層ダミー	0.034	0.005	0.259	0.895
老年層ダミー	- 0.509	- 0.078	0.247	0.039
性別（基準：女性）				
男性ダミー	- 0.202	- 0.036	0.218	0.355
学歴（基準：高校）				
小中学校ダミー	- 0.139	- 0.024	0.224	0.536
専門高専短大	0.574	0.074	0.265	0.031
大学ダミー	1.094	0.090	0.411	0.008
個人年収	- 0.001	- 0.046	0.001	0.292
暮らしぶり（15歳時）	- 0.101	- 0.031	0.115	0.380
現在の暮らしぶり	- 0.208	- 0.056	0.129	0.107
就業状態（基準：正規雇用）				
経営者役員	0.478	0.032	0.497	0.337
非正規雇用	- 0.211	- 0.034	0.259	0.416
自営家族従業	- 0.343	- 0.049	0.275	0.213
無職学生その他	- 0.345	- 0.053	0.291	0.235
地域（基準：その他）				
石狩ダミー	0.084	0.011	0.337	0.803
胆振ダミー	- 0.029	- 0.005	0.286	0.918
日高ダミー	0.130	0.021	0.294	0.660
釧路・根室ダミー	1.238	0.126	0.383	0.001
文化の経験（基準：両方少ない）				
伝承復興多い	- 0.177	- 0.016	0.378	0.639
宗教儀礼多い	0.509	0.065	0.301	0.091
両方多い	1.462	0.260	0.234	0.000
純血性×婚姻関係類型 (基準：両親×和人配偶者を持つアイヌ)				
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	- 1.085	- 0.103	0.412	0.009
両親×未婚アイヌ	- 0.568	- 0.037	0.548	0.301
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	- 0.831	- 0.088	0.387	0.032
片方×和人配偶者を持つアイヌ	- 1.174	- 0.198	0.301	0.000
片方×未婚アイヌ	- 1.082	- 0.130	0.404	0.008
和人配偶者 B	- 0.911	- 0.137	0.324	0.005
N	926			
調整済み R2 乗	0.100			
F 値	4.969			
有意確率	0.000			

と有意な違いが見られることがわかる。具体的には、その他のカテゴリはマイナスで有意であり、その意味で、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」よりもアイヌ文化の将来展望が少ない。

とはいって、ここからは、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」との比較から得られる知見しか直接的には検討できない。そこで、第3節と同様、基準カテゴリを変えて分析を行った。表3-21にそれを整理してある（なお、「純血性×婚姻関係類型」以外の変数は省略してある）。また、表3-21を参考に、各カテゴリ間の有意性検定を整理したのが表3-22である。表の読み方は表3-18と同様である。ただし、ここでは重回帰分析なのでExp(B)ではなく回帰係数を示した。また、図3-19にはその回帰係数を図示した（基準は「男性×未婚アイヌ」とした）。

表3-21から「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」を基準とした場合を見よう。そこからは、他のカテゴリすべてで有意な違いが見られない。それゆえ、「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」から見れば、その他すべてのカテゴリはほぼ同様の程度でアイヌ文化と将来関わりたいと考えている。しかし、その他のカテゴリを基準としてみれば、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」のみ有意に値が高くなっているのである。

これらの点をふまえれば、純血性と婚姻関係類型からは、おおよそ、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」がとくに将来展望が多いこと、その次に多いのが「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」であること、しかしそれ以外のカテゴリはほぼ同程度の割合でアイヌ文化の将来展望を持っていること、という特徴が見られることがわかる。

ところで、先に確認したように、図3-16での分散分析では「両親ともアイヌ」である者がとくに将来展望が多かった。ここで分析をふまえれば、そのうち「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」と「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」の将来展望のあり方が、それらをもたらしていたといえよう。

ここで、「両親ともアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」に将来展望が多く見られないのは、これまで十分にアイヌ文化を経験してきたからかもしれない。実際、第3節の図3-10でみたように、最もアイヌ文化の経験が多いのは、「両親ともアイヌ×和人配偶者を持つアイヌ」とは有意ではないものの、「両親ともアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」であった。このように見れば、アイヌの血筋が「濃い」者のうち、相対的に見てこれまでアイヌ文化の経験が多くはなかった者が、将来的にはよりアイヌ文化と関わりたいと考えているのかもしれない<sup>10)</sup>。

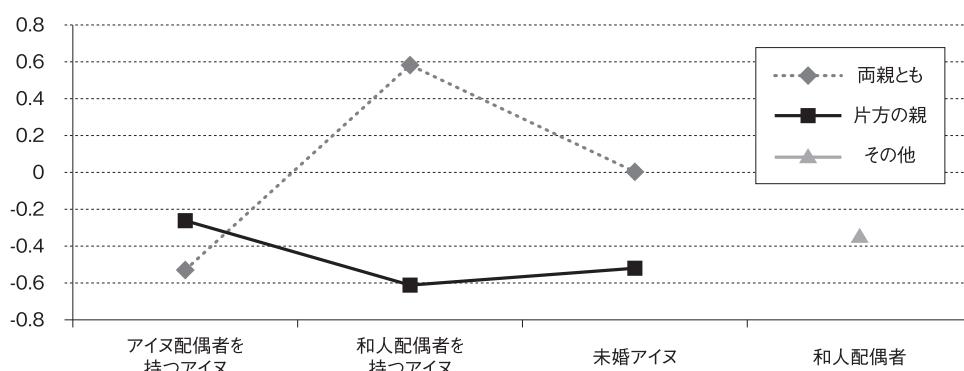


図3-19 「純血性×婚姻関係類型」の回帰係数（アイヌ文化の将来展望）  
(基準：「両親ともアイヌ×未婚アイヌ」)

表3-21 重回帰分析（アイヌ文化の将来展望）（「純血性×婚姻関係類型」）

	非標準化係数 B	標準化係数 ベータ	標準誤差	有意確率		非標準化係数 B	標準化係数 ベータ	標準誤差	有意確率
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)				両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.254	-0.024	0.431	0.556
両親×和人配偶者を持つアイヌ	1.085	0.126	0.412	0.009	両親×和人配偶者を持つアイヌ	0.831	0.096	0.387	0.032
両親×未婚アイヌ	0.517	0.033	0.589	0.380	両親×未婚アイヌ	0.264	0.017	0.566	0.642
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.254	0.027	0.431	0.556	片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)			
片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.090	-0.015	0.366	0.807	片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.343	-0.058	0.331	0.300
片方×未婚アイヌ	0.002	0.000	0.462	0.996	片方×未婚アイヌ	-0.251	-0.030	0.425	0.554
和人配偶者	0.174	0.026	0.386	0.652	和人配偶者	-0.080	-0.012	0.350	0.820
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-1.085	-0.103	0.412	0.009	両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.090	0.009	0.366	0.807
両親×和人配偶者を持つアイヌ	(基準)				両親×和人配偶者を持つアイヌ	1.174	0.136	0.301	0.000
両親×未婚アイヌ	-0.568	-0.037	0.548	0.301	両親×未婚アイヌ	0.607	0.039	0.508	0.233
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.831	-0.088	0.387	0.032	片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.343	0.036	0.331	0.300
片方×和人配偶者を持つアイヌ	-1.174	-0.198	0.301	0.000	片方×和人配偶者を持つアイヌ	(基準)			
片方×未婚アイヌ	-1.082	-0.130	0.404	0.008	片方×未婚アイヌ	0.092	0.011	0.333	0.783
和人配偶者	-0.911	-0.137	0.324	0.005	和人配偶者	0.264	0.040	0.247	0.286
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.517	-0.049	0.589	0.380	両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.002	0.000	0.462	0.996
両親×和人配偶者を持つアイヌ	0.568	0.066	0.548	0.301	両親×和人配偶者を持つアイヌ	1.082	0.125	0.404	0.008
両親×未婚アイヌ	(基準)				両親×未婚アイヌ	0.515	0.033	0.551	0.350
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.264	-0.028	0.566	0.642	片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.251	0.026	0.425	0.554
片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.607	-0.102	0.508	0.233	片方×和人配偶者を持つアイヌ	-0.092	-0.015	0.333	0.783
片方×未婚アイヌ	-0.515	-0.062	0.551	0.350	片方×未婚アイヌ	(基準)			
和人配偶者	-0.343	-0.051	0.523	0.512	和人配偶者	0.172	0.026	0.355	0.629

表3-22 重回帰分析（アイヌ文化の将来展望）（「純血性×婚姻関係類型」）（各カテゴリ間の有意性検定）

	基準（回帰係数=0）						
	両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ	両親×和人配偶者を持つアイヌ	両親×未婚アイヌ	片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	片方×和人配偶者を持つアイヌ	片方×未婚アイヌ	和人配偶者B
両親×アイヌ配偶者を持つアイヌ							
両親×和人配偶者を持つアイヌ	1.085						
両親×未婚アイヌ	=	=					
片方×アイヌ配偶者を持つアイヌ	=	-0.831	=				
片方×和人配偶者を持つアイヌ	=	-1.174	=	=			
片方×未婚アイヌ	=	-1.082	=	=	=		
和人配偶者	=	-0.911	=	=	=	=	

### 第3項 ジェンダー差を考慮した婚姻関係類型の分析

ところで、第3節では、ジェンダー差を考慮して婚姻関係類型の分析を行った。そこで、アイヌ文化の将来展望についても、「性別×婚姻関係類型」を用いて分析してみよう。用いる独立変数は表3-16と同様である。ただし、表3-20と同じく独立変数にはアイヌ文化の経験を加えた。それらの結果を表3-23に示した。

それを見ると、性別と婚姻関係類型以外の変数については、表3-20と同様の知見が得られる。たとえば、世代の「老年層」を見ると、回帰係数-0.577、有意確率0.021となっており、有意に値が低くなっている。

それでは、「性別×婚姻関係類型」からはどのような知見が得られるのだろうか。表3-23では基準カテゴリを「男性×未婚アイヌ」としてある。それによれば、「女性×未婚アイヌ」が回帰係数0.784、有意確率0.077と有意に値が大きい。その意味で、「未婚アイヌ」のうち、男性よりも女性でアイヌ文化の将来展望が多くなっている。

では、基準カテゴリを変えた場合には、どのような傾向が見られるのか。表3-24に基準カテゴリを変えた場合の結果を示した。また、表3-25には表3-21と同様に、各カテゴリ間の有意性検定の結果を整理し、図3-20には図3-19と同様に回帰係数を図示した（なお、図3-20の基準カテゴリは「男性×未婚アイヌ」とした）。

ただし、それによれば、各カテゴリ間で違いが見られるのは、先に確認した「男性×未婚アイヌ」と「女性×未婚アイヌ」の組み合わせのみである。表3-25で確認しよう。それを見ると、「男性×未婚アイヌ」と「女性×未婚アイヌ」以外のすべての組み合わせは有意ではないのである。

このように、ジェンダー差を考慮した婚姻関係類型から見れば、アイヌ文化の将来展望に関しては、「未婚アイヌ」の中で女性ほど将来展望が多いという形でジェンダー差が見られると判断できよう。

では、こうした違いは、具体的にどのようなアイヌ文化項目において見られるのだろうか。そこで、各項目別に二項ロジスティック回帰分析を行おう。その結果のすべてを示すのは煩雑になるので、図3-12や図3-13のような形で示そう。すなわち、「性別×婚姻関係類型」の各カテゴリのExp(B)を図3-21に示した（なお基準は、「男性×和人配偶者を持つアイヌ」とした）。

ここからは、とくに「歌（ウポポ、座り唄等）」と「楽器（ムックリ、トンコリ等）」において、「女性×未婚アイヌ」の回帰係数の値が高く、その意味で、それらのアイヌ文化に関わりたいと考えていることがわかる。

表3-26には基準カテゴリを「女性×未婚アイヌ」とした場合に得られる「歌（ウポポ、座り唄等）」と「楽器（ムックリ、トンコリ等）」の回帰係数を示した。「歌（ウポポ、座り唄等）」に関しては、他のすべてのカテゴリがマイナスで有意であり、その意味で「女性×未婚アイヌ」の者ほど「歌（ウポポ、座り唄等）」と関わりたいと考えている。他方で、「楽器（ムックリ、トンコリ等）」の場合は、「男性×和人配偶者」「女性×和人配偶者」さらに「男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ」と有意な違いが見られないものの、他のカテゴリとは有意な違いが見られる。このようにみれば、アイヌ文化のうち、とりわけ歌や楽器などの音楽的な文化に関して、未婚アイヌの女性は将来的に関わりを持ちたいと考えていると判断できよう。

とはいっても、図3-21を細かく見ていくと、より注目すべき傾向が見られることがわかる。すなわち、男性に多く将来展望が見られるアイヌ文化の項目がある一方、他方で女性に多く将来展望が見られるアイヌ文化の項目が存在しているのである。たとえば、男性においては、「アイヌ語」「祭事（カムイノミ等）」「伝統的狩猟・農法・漁法」「木彫」「自然観察会（エコツアー等）」などが、女性と比べて多く回答されている。他方で、同じく図3-21を見ていくと、女性の場合には、「編み物」「刺繍」「織物」「調理・保存法」などで男性よりも多く将来関わりたいと回答されていることを確認できる。

先にみた表3-20での重回帰分析の結果では、性別によって将来展望の多さには違いが見られなかった。しかし、ここでの分析からは、性別によって、将来的に関わりたいと考えているアイヌ文化の項目に異なりが見られることがわかる。その意味で、将来関わりたいアイヌ文化の項目の数には性別の違いは見られないものの、将来関わりたいアイヌ文化の内容には性別の違いが見られる。

表3-23 重回帰分析（アイヌ文化の将来展望）（「性別×婚姻関係類型」）

	非標準化係数 B	標準化係数 ベータ	標準誤差	有意確率
(定数)	2.618	0.000	0.572	0.000
世代（基準：壮年層）				
青年層ダミー	-0.057	-0.009	0.258	0.825
老年層ダミー	-0.577	-0.088	0.249	0.021
学歴（基準：高校）				
小中学校ダミー	-0.120	-0.020	0.226	0.596
専門高専短大	0.522	0.067	0.267	0.051
大学ダミー	0.915	0.075	0.412	0.027
個人年収	-0.001	-0.061	0.001	0.172
暮らしぶり（15歳時）	-0.126	-0.038	0.116	0.277
現在の暮らしぶり	-0.203	-0.054	0.130	0.119
就業状態（基準：正規雇用）				
経営者役員	0.568	0.038	0.503	0.259
非正規雇用	-0.169	-0.027	0.261	0.517
自営家族従業	-0.287	-0.041	0.278	0.302
無職学生その他	-0.308	-0.047	0.293	0.294
地域（基準：その他）				
石狩ダミー	0.119	0.015	0.340	0.726
胆振ダミー	0.031	0.005	0.287	0.915
日高ダミー	0.163	0.026	0.296	0.581
釧路・根室ダミー	1.249	0.128	0.385	0.001
文化（基準：両方少ない）				
伝承復興多い	-0.187	-0.017	0.381	0.624
宗教儀礼多い	0.491	0.062	0.304	0.106
両方多い	1.499	0.267	0.236	0.000
性別×婚姻関係類型（基準：男性×未婚アイヌ）				
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.510	0.048	0.492	0.300
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.231	0.024	0.460	0.615
男性×和人配偶者を持つアイヌ	0.360	0.053	0.403	0.371
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.542	0.082	0.394	0.169
女性×未婚アイヌ	0.784	0.078	0.442	0.077
男性×和人配偶者	0.389	0.036	0.489	0.427
女性×和人配偶者	0.469	0.061	0.421	0.266
N	926			
調整済み R <sup>2</sup> 乗	0.087			
F 値	4.392			
有意確率	0.000			

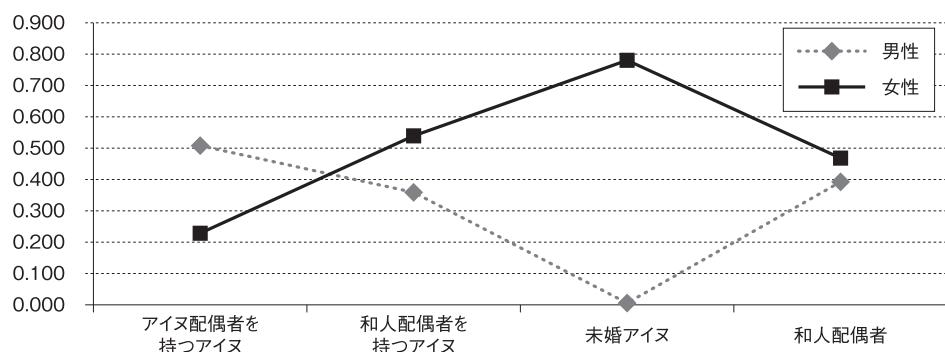
表3-24 重回帰分析（アイヌ文化の将来展望）（「性別×婚姻関係類型」のみ）

	非標準化 係数 B	標準化 係数 ベータ	標準誤差	有意 確率		非標準化 係数 B	標準化 係数 ベータ	標準誤差	有意 確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ （基準）	-0.279	-0.029	0.447	0.532	男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ （基準）	0.510	0.048	0.492	0.300
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.129	0.019	0.373	0.729	女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.231	0.024	0.460	0.615
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.150	-0.022	0.380	0.693	男性×和人配偶者を持つアイヌ	0.360	0.053	0.403	0.371
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.032	0.005	0.403	0.937	女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.542	0.082	0.394	0.169
男性×未婚アイヌ	0.510	-0.049	0.492	0.300	男性×未婚アイヌ （基準）	0.784	0.078	0.442	0.077
女性×未婚アイヌ	0.274	0.027	0.498	0.582	女性×未婚アイヌ	0.389	0.036	0.489	0.427
男性×和人配偶者	-0.121	-0.011	0.472	0.797	女性×和人配偶者	0.469	0.061	0.421	0.266
女性×和人配偶者	-0.041	-0.005	0.434	0.924	男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.274	-0.026	0.498	0.582
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ （基準）	0.279	0.027	0.447	0.532	女性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.553	-0.058	0.457	0.226
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.129	0.019	0.373	0.729	男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.424	-0.063	0.413	0.305
男性×和人配偶者を持つアイヌ	0.311	0.047	0.348	0.371	女性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.242	-0.036	0.388	0.533
女性×未婚アイヌ	-0.231	-0.022	0.460	0.615	男性×未婚アイヌ （基準）	-0.784	-0.075	0.442	0.077
女性×未婚アイヌ	0.553	0.055	0.457	0.226	女性×未婚アイヌ	-0.395	-0.037	0.497	0.427
男性×和人配偶者	0.158	0.015	0.465	0.735	男性×和人配偶者	-0.315	-0.041	0.413	0.446
女性×和人配偶者	0.238	0.031	0.375	0.526	男性×和人配偶者を持つアイヌ	0.121	0.012	0.472	0.797
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	0.150	0.014	0.380	0.693	女性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.158	-0.017	0.465	0.735
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.129	-0.014	0.373	0.729	男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.029	-0.004	0.385	0.941
男性×和人配偶者を持つアイヌ （基準）	0.129	0.019	0.373	0.729	女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.153	0.023	0.412	0.710
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.182	0.027	0.304	0.549	男性×未婚アイヌ	-0.389	-0.037	0.489	0.427
男性×未婚アイヌ	-0.360	-0.034	0.403	0.371	女性×未婚アイヌ	0.395	0.039	0.497	0.427
女性×未婚アイヌ	0.424	0.042	0.413	0.305	男性×和人配偶者 （基準）	0.080	0.010	0.435	0.854
男性×和人配偶者	0.029	0.003	0.385	0.941	女性×和人配偶者	0.041	0.005	0.434	0.924
女性×和人配偶者	0.109	0.014	0.342	0.750	女性×和人配偶者を持つアイヌ （基準）	-0.238	-0.031	0.375	0.526
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.032	-0.003	0.403	0.937	男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.109	-0.014	0.342	0.750
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.311	-0.033	0.348	0.371	女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.073	0.009	0.297	0.805
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.182	-0.027	0.304	0.549	男性×未婚アイヌ	-0.469	-0.061	0.421	0.266
女性×和人配偶者を持つアイヌ （基準）	-0.542	-0.052	0.394	0.169	女性×未婚アイヌ	0.315	0.041	0.413	0.446
女性×未婚アイヌ	0.242	0.024	0.388	0.533	男性×和人配偶者	-0.080	-0.010	0.435	0.854
男性×和人配偶者	-0.153	-0.014	0.412	0.710	女性×和人配偶者 （基準）	0.080	0.010	0.435	0.854
女性×和人配偶者	-0.073	-0.009	0.297	0.805	女性×和人配偶者	0.041	0.005	0.434	0.924

表3-25 重回帰分析（アイヌ文化の将来展望）

(「性別×婚姻関係類型」) (各カテゴリ間の有意性検定)

	男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	男性×和人配偶者を持つアイヌ	女性×和人配偶者を持つアイヌ	男性×未婚アイヌ	女性×未婚アイヌ	男性×和人配偶者	女性×和人配偶者
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ								
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	=							
男性×和人配偶者を持つアイヌ	=	=						
女性×和人配偶者を持つアイヌ	=	=	=					
男性×未婚アイヌ	=	=	=	=				
女性×未婚アイヌ	=	=	=	=	0.784			
男性×和人配偶者	=	=	=	=	=	=		
女性×和人配偶者	=	=	=	=	=	=	=	

図3-20 「性別×婚姻関係類型」の回帰係数（アイヌ文化の将来展望）  
(基準：「男性×未婚アイヌ」)

こうした点が有意に見られるかどうかを検討しておこう。表3-27には、男性が選好しているアイヌ文化の項目における「性別×婚姻関係類型」を整理した。基準カテゴリは「男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ」である。たとえば、「祭事（カムイノミ等）」を見よう。そこからは、女性を含むカテゴリのすべてが有意にマイナスになっていること、しかし、男性を含むカテゴリでは有意な違いが見られないことがわかる。その意味で、男性ほど「祭事（カムイノミ等）」を将来行いたいと考えていることがわかる。こうした傾向は、表3-27で示した「アイヌ語」「伝統的狩猟・農法・漁法」「木彫」「自然観察会（エコツアーライド）」でおおよそ確認できる。

他方で、表3-28には、女性が選好しているアイヌ文化の項目を整理した。基準カテゴリは「女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ」である。たとえば、「編み物」を見よう。そこからは、表3-27とは逆に、男性を含むカテゴリで有意にマイナスになっているのに対し、女性を含むカテゴリでは有意な違いが見られないことがわかる。こうした傾向は、表3-28で示した「刺繍」「織物」「調理・保存法」でおおよそ確認できよう。

ただし、ここでさらに注目すべきは、上で確認してきた文化項目の多くにおいては、同じ性別内では有意な違いが見られなかったという点だろう。すなわち、上記のアイヌ文化の多くにおいては、同一の性別のなかでは「アイヌ配偶者を持つアイヌ」「和人配偶者を持つアイヌ」「未婚アイヌ」「和人配偶者」の間で将来展望に違いが見られないものである。その意味において、これまでアイヌ文化の経験が少なかった者も、将来的にはアイヌ文化と関わりを持ちたいと考えているといえる。

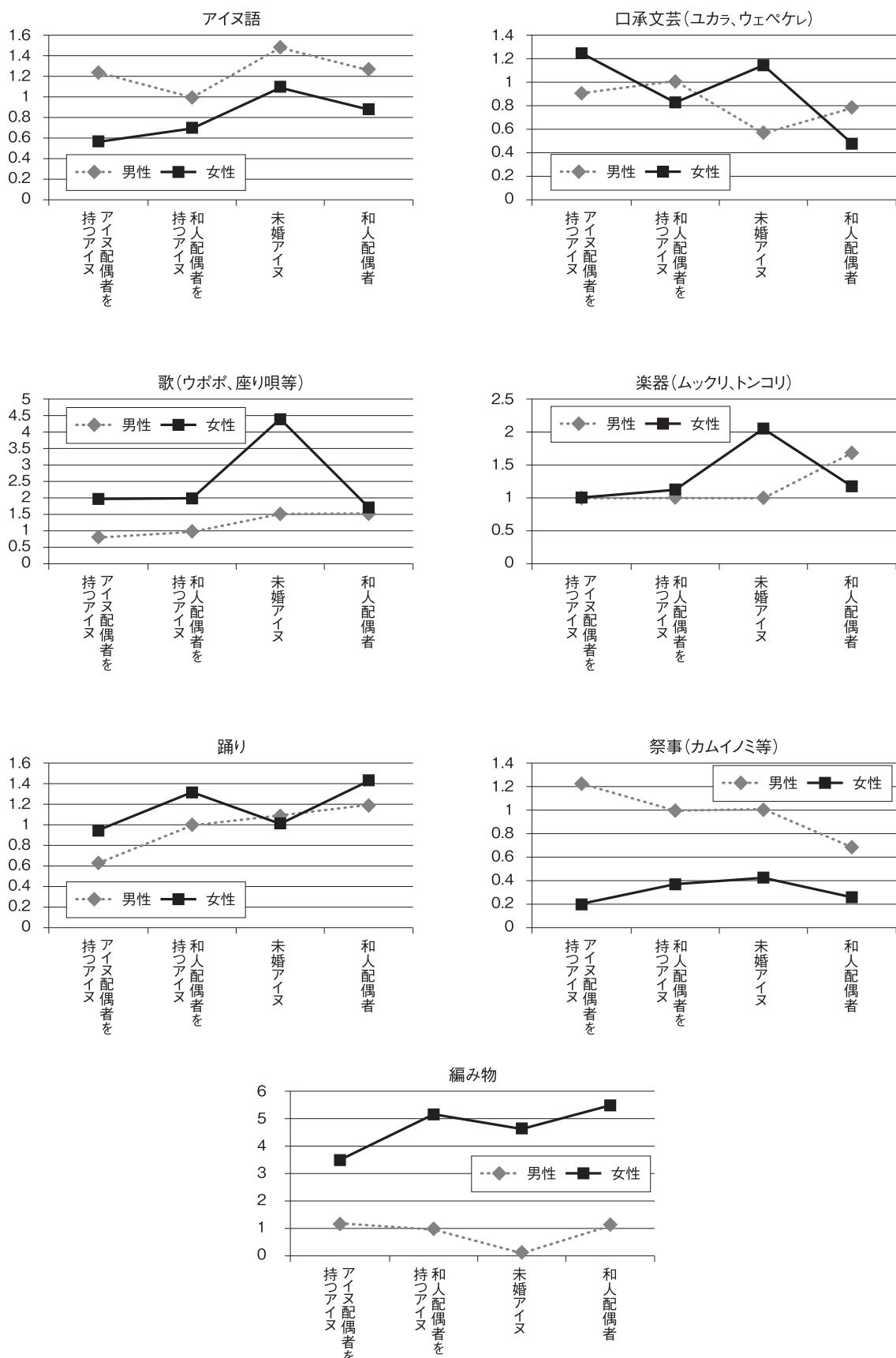


図3-21 「性別×婚姻関係類型」のオッズ比 (Exp (B)) (将来展望)  
(基準：「男性×和人配偶者を持つアイヌ」)

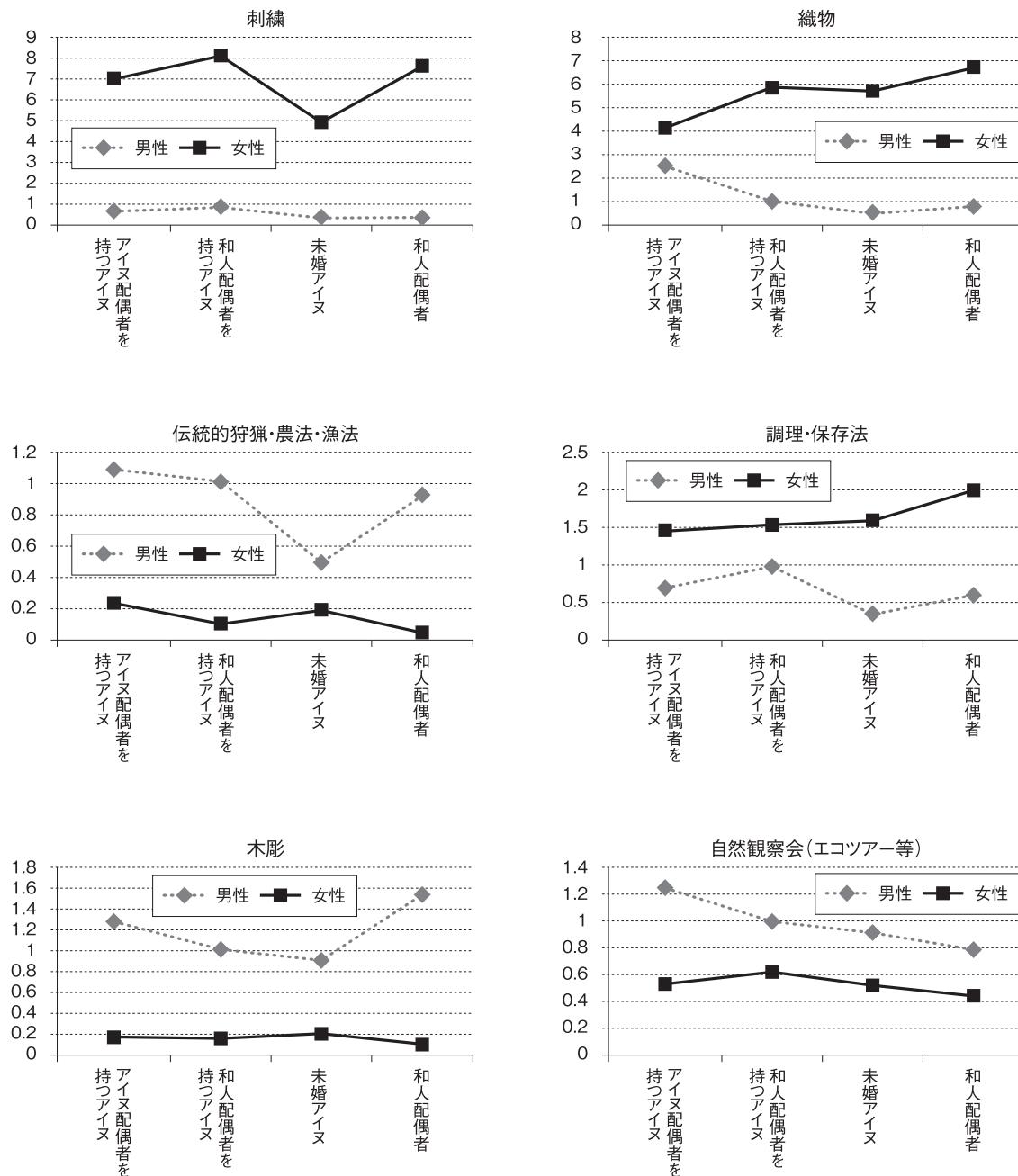


図3-21 「性別×婚姻関係類型」のオッズ比(Exp(B))(将来展望)(続き)  
(基準:「男性×和人配偶者を持つアイヌ」)

表3-26 二項ロジスティック回帰分析（「歌（ウポボ、座り唄等）」「樂器（ムックリ）等」）  
 （「性別×婚姻関係類型」）（基準：「女性×未婚アイヌ」）（N = 926）

	歌（ウポボ、座り唄等）				樂器（ムックリ、トンコリ等）			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-1.656	0.191	0.526	0.002	-0.743	0.476	0.463	0.109
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.790	0.454	0.425	0.063	-0.711	0.491	0.427	0.096
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-1.479	0.228	0.405	0.000	-0.725	0.484	0.373	0.052
女性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.784	0.457	0.355	0.027	-0.606	0.545	0.344	0.078
男性×未婚アイヌ	-1.027	0.358	0.432	0.018	-0.712	0.491	0.410	0.082
女性×未婚アイヌ	(基準)				(基準)			
男性×和人配偶者	-1.020	0.361	0.513	0.047	-0.200	0.819	0.443	0.652
女性×和人配偶者	-0.932	0.394	0.389	0.017	-0.545	0.580	0.373	0.145
Cox & Snell=0.108				Cox & Snell=0.068				

表3-27 二項ロジスティック回帰分析（将来展望の一部）

（「性別×婚姻関係類型」）（基準：「男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ」）（N = 926）

	アイヌ語				祭事（カムイノミ等）				伝統的狩猟・農法・漁法			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)				(基準)				(基準)			
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.754	0.471	0.366	0.039	-1.797	0.166	0.457	0.000	-1.497	0.224	0.445	0.001
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.213	0.808	0.298	0.475	-0.197	0.821	0.315	0.531	-0.090	0.914	0.310	0.771
女性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.565	0.569	0.321	0.078	-1.189	0.305	0.357	0.001	-2.265	0.104	0.415	0.000
男性×未婚アイヌ	0.184	1.202	0.392	0.639	-0.190	0.827	0.434	0.662	-0.773	0.461	0.432	0.074
女性×未婚アイヌ	-0.115	0.891	0.397	0.771	-1.051	0.350	0.482	0.029	-1.682	0.186	0.491	0.001
男性×和人配偶者	0.029	1.029	0.372	0.938	-0.578	0.561	0.434	0.183	-0.164	0.849	0.396	0.678
女性×和人配偶者	-0.337	0.714	0.347	0.332	-1.548	0.213	0.428	0.000	-3.090	0.046	0.605	0.000
Cox & Snell=0.096				Cox & Snell=0.129				Cox & Snell=0.159				
	木彫				自然観察会（エコツアーエ等）							
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)				(基準)				(基準)			
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-2.005	0.135	0.413	0.000	-0.862	0.422	0.373	0.021				
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.242	0.785	0.298	0.417	-0.220	0.803	0.296	0.459				
女性×和人配偶者を持つアイヌ	-2.066	0.127	0.349	0.000	-0.696	0.499	0.323	0.031				
男性×未婚アイヌ	-0.345	0.708	0.393	0.380	-0.306	0.736	0.392	0.434				
女性×未婚アイヌ	-1.827	0.161	0.432	0.000	-0.862	0.422	0.418	0.039				
男性×和人配偶者	0.181	1.198	0.371	0.626	-0.462	0.630	0.375	0.218				
女性×和人配偶者	-2.538	0.079	0.410	0.000	-1.021	0.360	0.361	0.005				
Cox & Snell=0.148				Cox & Snell=0.057								

表3-28 二項ロジスティック回帰分析（将来展望の一部）

（「性別×婚姻関係類型」）（基準：「女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ」）（N = 926）

	編み物				刺繡				織物			
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-1.129	0.323	0.519	0.030	-2.214	0.109	0.496	0.000	-0.464	0.628	0.452	0.304
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)				(基準)				(基準)			
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-1.257	0.285	0.399	0.002	-1.955	0.142	0.353	0.000	-1.441	0.237	0.409	0.000
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.381	1.464	0.300	0.204	0.143	1.154	0.268	0.592	0.329	1.390	0.302	0.276
男性×未婚アイヌ	-3.337	0.036	1.062	0.002	-2.874	0.056	0.586	0.000	-1.982	0.138	0.604	0.001
女性×未婚アイヌ	0.275	1.316	0.401	0.493	-0.361	0.697	0.364	0.321	0.309	1.362	0.395	0.433
男性×和人配偶者	-1.120	0.326	0.568	0.048	-2.762	0.063	0.652	0.000	-1.541	0.214	0.611	0.012
女性×和人配偶者	0.442	1.556	0.324	0.172	0.077	1.080	0.290	0.790	0.473	1.604	0.323	0.144
Cox & Snell=0.159				Cox & Snell=0.226				Cox & Snell=0.157				
	調理・保存法											
	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率	B	Exp(B)	標準誤差	有意確率
男性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	-0.747	0.474	0.394	0.058								
女性×アイヌ配偶者を持つアイヌ	(基準)											
男性×和人配偶者を持つアイヌ	-0.384	0.681	0.308	0.213								
女性×和人配偶者を持つアイヌ	0.053	1.054	0.278	0.849								
男性×未婚アイヌ	-1.370	0.254	0.465	0.003								
女性×未婚アイヌ	0.091	1.095	0.373	0.808								
男性×和人配偶者	-0.863	0.422	0.422	0.041								
女性×和人配偶者	0.311	1.365	0.298	0.296								
Cox & Snell=0.061												

そのうえ、有意な違いは見られないものの、より興味深い動向も確認することができる。それは、ここで確認してきた文化項目のいくつかにおいては、最も将来関わりたいと考えている者が「和人配偶者」となっているという点である。

再度、図3-21に戻り、たとえば「木彫」を見よう。そこでは、先ほど見たようにおおよそ男性ほど将来「木彫」を行いたいと回答しているものの、そのうち最も回答しているのは男性の「和人配偶者」つまり和人夫であることがわかる。他方で、「調理・保存法」を見ると、おおよそ女性ほど将来それに関わりたいと回答しているものの、最も値が大きいのは女性の「和人配偶者」すなわち和人妻である。こうした傾向は、「織物」や「編み物」でも確認することができる。

### 終わりに

以上、アイヌ文化の経験の多様性と分化要因について検討してきた。知見をまとめよう。

まず、第1に、アイヌ文化の経験については、世代が高いほど、男性より女性の方がアイヌ文化を経験していた。また、性別に関しては、男性の方が宗教儀礼を、女性の方が伝承復興活動を行うという特徴も見られた。

純血性に関しては、アイヌの血筋を持つ者ほど、さらにアイヌの血筋が「濃い」者ほどアイヌ文化の経験が多かった。他方で、婚姻関係類型に関しては、結婚しているほどアイヌ文化の経験が多いものの、配偶者がアイヌであるか和人であるかによってアイヌ文化の経験に違いが見られるとは強くはいえない。とはいえ、このように見れば、おおよそ「アイヌ性」が強いほどアイヌ文化を経験しているということができる。

しかし、ジェンダー差を考慮しながら婚姻関係類型を見ると、全体的には、和人妻が、既婚のアイヌ男性よりもアイヌ文化の経験が少ないものの、未婚のアイヌ男性と同程度にアイヌ文化を経験していた。

そのうえ、アイヌ文化の項目によっては、和人妻は、既婚のアイヌ男性と同程度もしくはそれ以上にアイヌ文化を経験している。具体的には、手芸・芸術・調理などで和人妻はアイヌ男性と同程度かそれ以上の経験をしている。ここからは、アイヌの血筋を持たない和人妻が、現在のアイヌ文化の担い手として重要な位置を占めていることが浮き彫りとなろう。

次に、第2に、アイヌ文化の将来展望については、まずは、これまでアイヌ文化を経験している者ほど将来もアイヌ文化と関わりたいと考えていた。また、世代に関しては「老年層」においてそうした展望が少なかったものの、性別に関しては違いが見られなかった。

さらに、純血性と婚姻関係類型に関しては、アイヌの血筋が「濃い」者ほど将来アイヌ文化と関わりたいと考えていた。具体的には、とくに「両親とも」アイヌの血筋である者のうち「和人配偶者を持つアイヌ」や「未婚アイヌ」においてそれは見られた。とりわけ「未婚アイヌ」の動向をふまえれば、アイヌの血筋が「濃い」者のうちこれまでアイヌ文化の経験が相対的に多くはなかつた者が将来アイヌ文化と関わりを持ちたいと考えているといえるかもしれない。

他方で、ジェンダー差を考慮した婚姻関係類型を見ると、未婚のアイヌ女性においてとくに歌や踊りに関するアイヌ文化の将来展望が多く見られた。さらに、アイヌ文化の項目別に見ると、男性ほど選好する項目と女性ほど選好する項目が見られた。その意味で、アイヌ文化の将来展望の多寡には性別の違いが見られないものの、将来関わりたいアイヌ文化の内容については性別の違

いが見られる。他方で、同一の性別のなかでは、婚姻関係類型によって将来展望に違いはそれほど見られなかった。その上、有意な違いが見られなかったものの、和人妻や和人夫が最も将来展望が多いアイヌ文化の項目も存在していた。

以上のように見れば、今後のアイヌ文化は、第1に、これまでアイヌ文化を経験してきた者が中心となって担われていく可能性が高いだろう。なぜなら、今後、アイヌ文化に関わりたいと考えている者は、これまでにアイヌ文化を経験している者であったからである。さらには、アイヌの血筋が「濃い」者も中心的な担い手となっていくだろう。なぜなら、彼らのうち「和人配偶者を持つアイヌ」や「未婚アイヌ」において相対的に多く将来展望が見られたからである。

しかし、第2に、これまでアイヌ文化の経験が少なかった者、さらにアイヌの血筋を持たない者も、今後、アイヌ文化の担い手として重要な位置を占める可能性があろう。なぜなら、未婚のアイヌ女性において、とくに歌や踊りに関わりたいという将来展望が見られたからである。さらに、和人妻や和人夫においては、同じ性別のうち、その他の婚姻関係類型の者と同様の将来展望が見られるだけでなく、アイヌ文化の項目のいくつかにおいては最も多く将来展望が見られたからである。とくに和人妻は現在においても手芸や芸術などのアイヌ文化において、アイヌの血筋の男性よりもアイヌ文化を経験している。

ともあれ、現在、イランカラブテキャンペーンなどアイヌ文化の「復興」「再生」を図る試みがなされている。こうした動向のなかで、アイヌ文化がどのような主体によって担われていくのか。こうした論点に注目していく必要があるだろう。

#### 注

- 1) 宗教儀礼の経験を捉える問40(14項目)の選択肢は、「知らない」=1、「人の話やうわさ等で知っている」=2、「過去に体験したことがある」=3、「現在も実践している」=4となっている。それゆえ、それらを足し合わせれば、Min14～Max56の連続変数ができる。この問40(14項目)を足し合わせた変数は、宗教儀礼の経験の多寡を捉えていると解釈できる。他方で、伝承復興活動の経験を捉える問41(13項目)の選択肢は、「関わったことがない」=1、「かつて関わったことがある」=2、「現在関わっている」=3となっており、ここではそれらを足し合わせればMin13～Max39の連続変数ができる。この問41(13項目)を足し合わせた変数は、伝承復興活動の経験の多寡を捉えていると解釈できよう。
- 2) 問42(13項目)に関しては、問41の項目を記入した場合には「記入あり」=1、記入していない場合には「記入なし」=0とした。それゆえ、ここで用いる問42を足し合わせた変数はMin1～Max13となる。なお、問42に回答していない者は除いてある。
- 3) 調整済み残差とは、実度数と期待度数の差である残差が0かどうかを検定する場合に用いられる統計量であり、その絶対値が1.960よりも大きければ「残差=0」であるという帰無仮説を棄却できる(両側検定5%水準)。たとえば、太郎丸(2005:39-40)参照。
- 4) 第1章で用いた純血性は、「父母祖父母ともアイヌ」「父母ともアイヌ」「父のみアイヌ」「母のみアイヌ」「父母ともアイヌではない」の5カテゴリであったが、ここでは、「父母祖父母ともアイヌ」「父母ともアイヌ」を「両親とも」アイヌに、「父のみアイヌ」「母のみアイヌ」を「片方の親のみ」アイヌに縮約し、3カテゴリとした。なお、「父母ともアイヌではない」には、「和人配偶者」「養父母アイヌ」「養父アイヌ」「養母アイヌ」がいるが、ここでは「和人配偶者」のみを対象にして分析する。
- 5) 実際、「純血性」と「婚姻関係類型」とを用いてカテゴリ区分を変えることも行なながら、同時に回帰分析を行い、多重共線性の程度を示すVIFを算出したが、30以上を超える場合がほとんどであった。しかし、以下で示す合成変数で分析したところVIFは3程度に減少した。なお、VIFは値が大きくなるほど多重共線性が高いことを意味する。たとえば、与謝野ほか(2006:339-47)参照。

- 6) なお、基準は「片方の親のみアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」としてある。ここからは、「片方の親のみアイヌ×アイヌ配偶者を持つアイヌ」を1とした場合、その他のカテゴリのExp (B) が何倍となっているのかを視覚的に確認できる。
- 7) なお、ここからは、クロス表分析で確認した傾向は、その他の変数による「みせかけ」のものだったといえよう。ここで、その他の変数とは世代であると思われる。先にみたように世代が高いほどアイヌ文化を経験していた。そして、未婚者よりも既婚者の方が、すなわち「未婚アイヌ」よりも「和人配偶者」の方で世代が高い者が多い。それゆえ、婚姻関係におけるクロス表の結果は、部分的には世代の影響による「みせかけ」のものであったと解釈できよう。
- 8) なお、その他のコントロール変数についても検討しておこう。表3-14からは、まずは、学歴を見ると、学歴が高いほどアイヌ文化の経験が多いという関連が見られる。「知的」な能力が高いものほど文化にふれようとするということかもしれない。次に、「暮らしぶり（15歳時）」が豊かであった者ほど、アイヌ文化を経験していない。これは、暮らしが豊かであることはアイヌ文化との関わりを減らすということを意味している可能性がある。さらに「現在の暮らしぶり」が豊かであると感じている者もアイヌ文化の経験が少ない。他方で、地域では、石狩と釧路・根室でアイヌ文化の経験が多いという特徴が見られている。
- 9) ところで、分散分析においては、世代による違いが見られなかった。では、多変量解析において、「老年層」で将来展望が少ないという形で世代による違いが見られたのはなぜなのだろうか。ここで注目すべきは、他の変数の影響力を考慮しなければ、「老年層」は、他の世代と同程度に、将来展望が多かったという点である。ここからは、将来展望を多くさせる変数が、その他の世代の者と比べて「老年層」に偏って存在しているために、「疑似的」に「老年層」において将来展望が、その他の世代の者と同程度に見られていたと考えることができるのではないか。そうした変数として考えることができるのは、アイヌ文化の経験であろう。第3節で確認したように、世代が高いほどアイヌ文化を経験していた。そして、先に確認したように、アイヌ文化を経験している者ほど将来展望も多い。こうしたアイヌ文化の経験の違いが、他の変数の影響力を考慮していない分散分析において、「老年層」が他の世代の者と同程度の将来展望を持つように見せていたのではないだろうか。そして、そのアイヌ文化の経験の影響力を考慮した多変量解析では、その影響力が取り除かれたゆえに、「老年層」において将来展望が少ないという関連が見られたと考えができる。
- 10) とはいえ、こうした「両親ともアイヌ」の者のうちにおける将来展望の相違は、興味深い論点であろう。それらの相違が生まれるメカニズムについては、今後慎重に検討する必要がある。

#### 参考・引用文献

- 小内透編著, 2010, 『北海道アイヌ民族生活実態調査報告 その1 現代アイヌの生活と意識——2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書——』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.
- 小内透・長田直美, 2012, 「アイヌとしてのアイデンティティの形成と変容」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告 その2 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容——2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書——』北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 169-81.
- 小野寺理佳, 2012, 「アイヌ社会における和人のアイヌ性——和人妻と和人夫」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告 その2 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容——2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書——』北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 123-42.
- 櫻井義秀, 2010, 「アイヌ民族の宗教意識と文化伝承の課題」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告 その1 現代アイヌの生活と意識——2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書——』北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 97-104.
- 新藤こずえ, 2013, 「エスニック・アイデンティティの諸相」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書30 新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室, 51-67.
- 太郎丸博, 2005, 『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』ナカニシヤ出版.
- 上山浩次郎, 2012, 「エスニックな社会運動への参加と意識——アイヌ協会がもつ生活上の意味」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告 その2 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容——2009年北海道アイヌ民族生

活実態調査報告書——』 北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 183-93.  
与謝野有紀ほか, 2006, 『社会の見方, 測り方——計量社会学への招待』 効草書房.

(上山浩次郎)